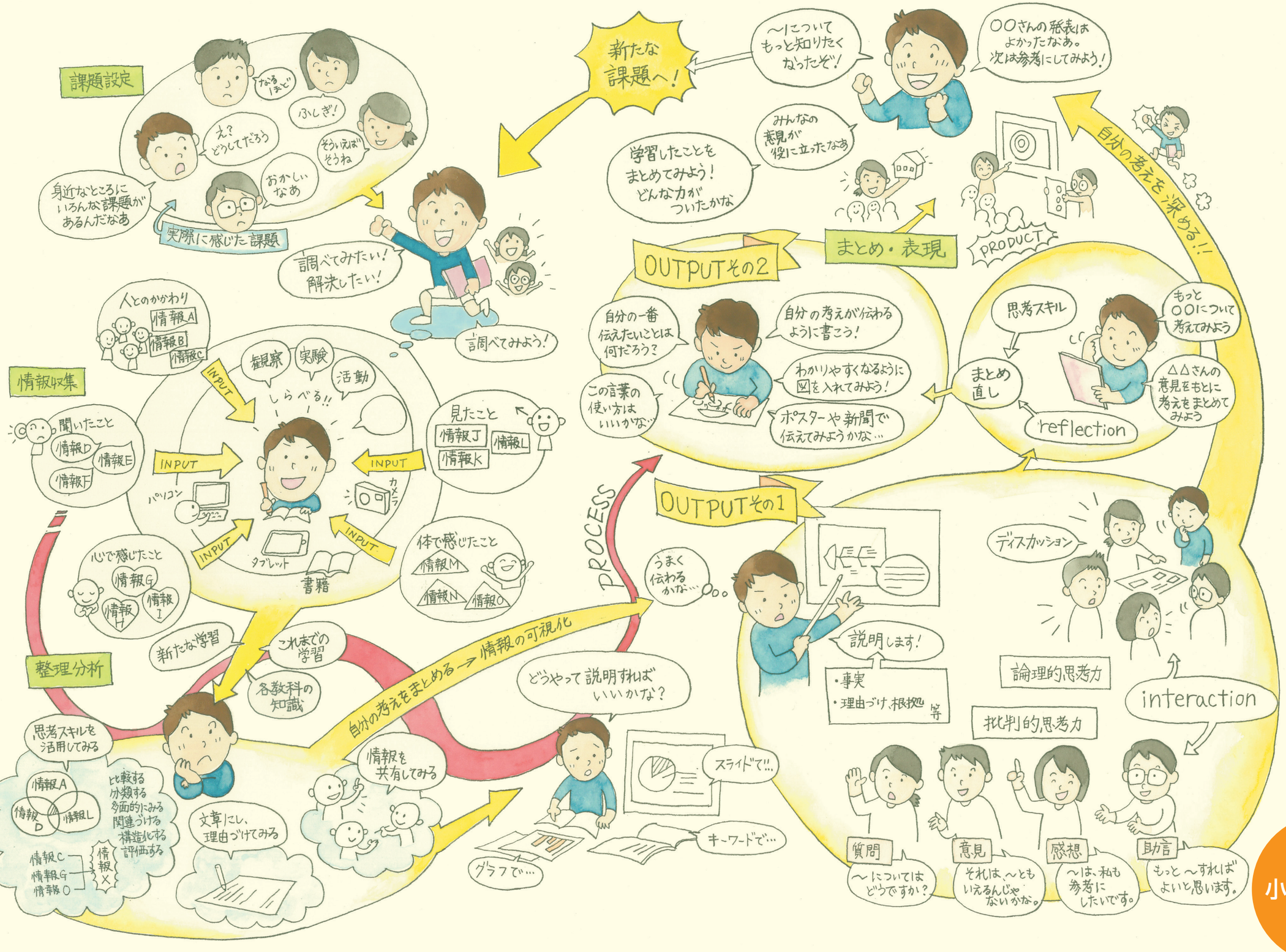
総合的な学習の時間 ガイドブック



小・中学校編

総合的な学習の時間ガイドブック（小・中学校編）

目　　次

Ⅰ 島根県の目指す「地域に関する学習」と
総合的な学習（探究）の時間… 1
（小・中学校編／高等学校編　共通）

Ⅱ 総合的な学習の時間について …… 4

Ⅲ 探究的な学習の過程（充実のポイント）…… 9

Ⅳ 事例紹介 …… 25
事例① 出雲市立北陽小学校 …… 26
事例② 松江市立秋鹿小学校 …… 30
事例③ 益田市立益田東中学校 …… 34
事例④ 美郷町立邑智中学校 …… 38
事例⑤ 海士町立海士中学校 …… 42

Ⅴ 総合的な学習の時間チェックリスト …… 46

Ⅵ 地域素材の活用について …… 47

Ⅰ　島根県の目指す「地域に関わる学習」と総合的な学習（探究）の時間

「しまね教育魅力化ビジョン」（令和２年３月発行）では、「ふるさと島根を学びの原点に未来にはばたく　心豊かな人づくり」を基本理念に掲げており、教育の魅力化について次のように述べています。

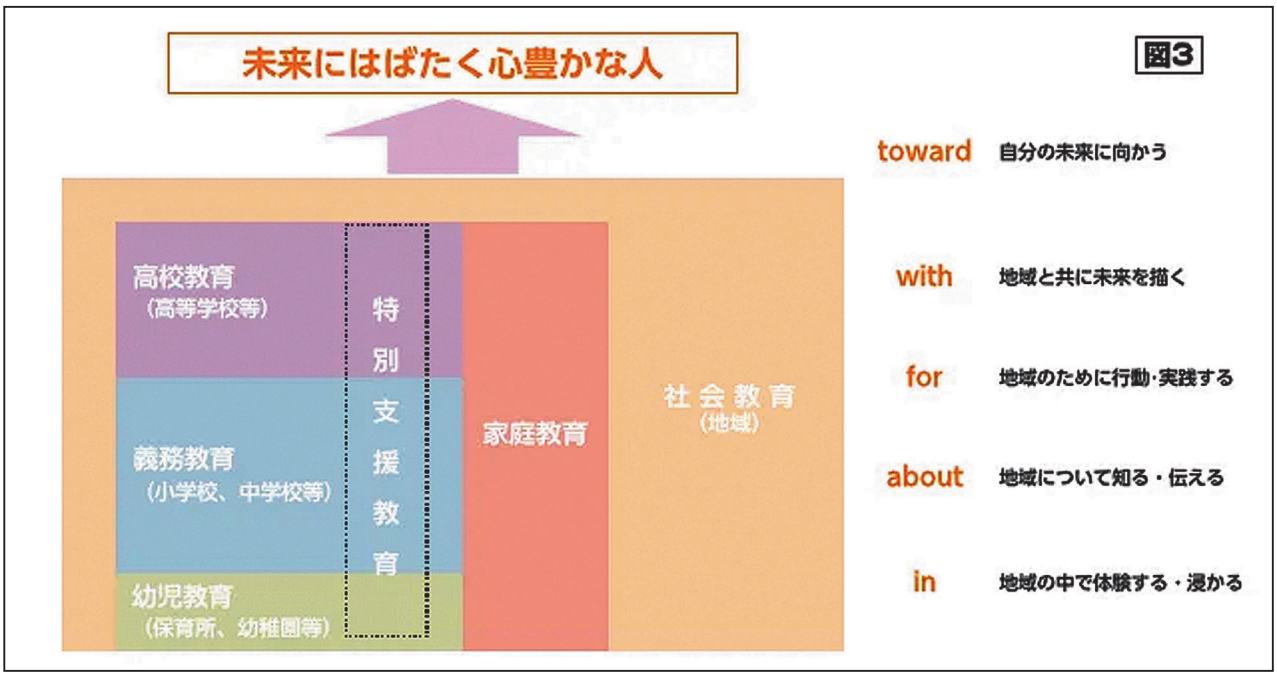
１　「教育の魅力化」とは

島根の子どもたち一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域がその目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよいものに高めていくことです。

そして、「教育の力を地域の力に、地域の力を教育の力にする教育活動」により、学校教育と地域社会との間の好循環を生み出そうとする理念を学校・家庭・地域が共有し、一人一人の子どもの学びに向かう意欲を引き出し、「生きる力」を育むことが、島根らしい教育の魅力を高めることにつながります。

※「しまね教育魅力化ビジョン」ｐ５より抜粋

そして、＜教育の魅力化による次代を担う人づくり＞のために、次のような一体的・系統的な学びを進めていくことが重要であるとしています。



in とは…

地域の「中」に全身でどっぷり浸かり、様々な感覚を使って地域を体験することです。

外遊び、自然体験、地産地消の食育などはその代表例で、就学前から小学校低学年までに行うことが重要です。

味覚の形成期にしっかり地域のものや旬のものを味わい、地元の食材のよさがわかる確かな感覚を磨くこと、神楽の音やリズム、森や土の香りなどに浸り、地域での「原体験」や「原風景」を深く多くもつことで、愛着や郷土愛の土台を育みます。

about とは…

地域に「ついて」知る、調べる、考える、伝える学びなど、自ら行動することです。

小学校、中学校段階では、地域のひと、もの、ことと触れながら地域の歴史や文化、現在の課題、未来の姿などを調べ、考え、地域外の人にも伝えること等を通して、誇りや愛着を育みます。

for とは…

自分を育ててもらった、自分が暮らしている地域の「ために」、行動、実践することです。

中学校、高等学校段階では地域行事や地域ボランティア等への参加、地域の課題を発見し解決に向けた提案、課題解決への実践などを経て、自分たちも地域の役に立てる、地域を守り、創っていく一員だという自覚や当事者意識の醸成を図ります。

with とは…

地域と「ともに」自分の未来を描き・デザインしていくことです。

高等学校など今後の自分の進路や生き方・働き方・暮らし方を考える時期には、地域のことと、自分の未来を切り離して考えるのではなく、つなげて考えてみる必要があります。自分という「個」の未来だけでなく、「地域」や「社会」の未来を考えていくように促します。

toward とは…

自分の未来に「向かって」はばたくことです。

日本や世界を見渡す広い視野と島根への愛着と誇りをもち、世界や日本と自分との関係や生まれ育った地域と自分との関係を意識しながら、夢や希望の実現に向かって意欲的に進んでいくことが重要です。

※「しまね教育魅力化ビジョン」ｐ８～９より抜粋

また、令和３年３月策定の「しまねの学力育成推進プラン（令和３年度～令和６年度）」では、学力育成に向けた具体的取組の柱の一つに「地域に関わる学習の充実」を掲げています。その学習の中心になるのが、小・中学校等での「ふるさと教育」、高等学校での「地域課題解決型学習」であり、その学びの中心となっている授業が、「総合的な学習の時間」（小・中学校）、「総合的な探究の時間」（高等学校）です。もちろん、地域に関わる学習は、他の教科や特別活動、放課後等にも行われていますが、総合的な学習（探究）の時間の果たす役割は大きいです。

一方、小中高の連携による一体的・系統的な学びの重要性は理解しているものの、例えば、高等学校においては、入学した生徒が、地元の小・中学校等の総合的な学習の時間において、どのような学びをしてきたのかわからないまま授業を行ったり、逆に、小・中学校等においては、高等学校での学びへの見通しがないために、どのような力をどの程度育てておけばよいのかわからないまま授業を進めがちであるという課題があります。

また、総合的な学習（探究）の時間での学びを深めるためには、「探究的な学習の過程」（高等学校では「探究の過程」という。以下同じ。）すなわち「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルが経由され更新されていくことが重要です。しかし、地域に関する学習を総合的な学習（探究）の時間において実施する際、探究的な学習の過程（探究の過程）がしっかりと経由されていないケースが多く見られるという課題もあります。特に、課題が児童・生徒自らが設定したものとなっているのか、また、そのような課題設定をするにはどのような仕掛けが必要なのかわからないという声もあります。

これらの課題意識を踏まえ、「しまねの学力育成推進プラン」では、「総合的な学習（探究）の時間ガイドブック」を作成し、それを用いた研修を実施することとしています。

このたび、多くの学校の協力を得て、このガイドブックが完成しました。探究的な学習の過程（探究の過程）を経由することを意識した授業の在り方や、それぞれの過程における教師の指導の在り方などについて、より具体的な事例等を掲載しています。また、各校種においてどのような学びがなされているのか把握し、継続的な学びを意識していただくため、小・中学校編と高等学校編とをセットで配付しています。

「ふるさと島根を学びの原点に　未来にはばたく　心豊かな人づくり」の理念の実現に向け、このガイドブックをきっかけに、総合的な学習（探究）の時間における地域に関わる学習がいっそう深まるよう、各校での授業の見直し、改善をお願いします。

Ⅱ　総合的な学習の時間について

1　総合的な学習の時間に求められるもの

近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、さらには、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大など、まさに予測困難な時代を迎えようとしています。

このような時代にあって、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められています。

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものです。

今回の学習指導要領の改訂においては、探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成することを基本的な考え方としており、その実現に向けて、探究的な学習における４つのプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）の質的充実が求められています。

また、総合的な学習の時間が、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸であるという認識のもと、「各学校が定める総合的な学習の時間の目標」は、「各学校における教育目標」を踏まえて設定することが明確に示されました。

令和３年１月の中央教育審議会の答申では、多様な課題が生じている今日においては、これまでの文系・理系といった枠にとらわれずに各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められるとして、総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習の充実を図るとともに、STEAM 教育※に取り組むことが期待されています。

※ STEAM 教育

STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で A を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習

2　総合的な学習の時間の目標

第１　目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

（２）実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

（３）探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

※詳細については、文部科学省「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」、「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」ｐ８～を参照

今回の改訂においては、「横断的・総合的な学習」を、「探究的な見方・考え方」を働かせ行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための「資質・能力」を育成することを目指しています。この「探究的な見方･考え方」とは、各教科等における見方･考え方を総合的に活用するとともに、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けることであるといえます。この探究的な見方・考え方は、各教科等の見方・考え方を活用することに加えて、「俯瞰して対象を捉え、探究しながら自己の生き方を問い続ける」という、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方です。つまり、探究的な見方・考え方を働かせるということは、これまでの総合的な学習の時間において大切にしてきた「探究的な学習」の一層の充実が求められていると考えることができます。

今回の改訂の趣旨を実現するための具体的な学習指導のポイントは、「学習過程を探究的にすること」と「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」であり、「探究的な学習」の更なる充実が求められています。

（１）学習過程を探究的にすること

探究的な学習とするためには、学習過程が以下のようになることが重要です。

①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする

③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

④【まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

（2）他者と協働して主体的に取り組む活動にすること

総合的な学習の時間においては、目標にも明示されているように、特に、異なる多様な他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習活動を重視する必要があります。それは、多様な考え方をもつ他者と適切に関わり合ったり、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質・能力の育成につながるからです。また、協働的に学ぶことにより、探究的な学習として、児童生徒の学習の質を高めることにつながるからです。そしてその前提として、何のために学ぶのか、どのように学ぶのかということを児童生徒自身が考え、主体的に学ぶ学習が基盤にあることが重要です。

協働的に学ぶことの意義の一つ目は、多様な情報の収集に触れることです。同じ課題を追究する学習活動を行っていても、収集する情報は協働的な学習の方が多様であり、その量も多くなります。情報の多様さと多さは、その後の整理や分析を質的に高めるために欠くことのできない重要な要件です。二つ目は、異なる視点から検討ができることです。整理したり分析したりする際には、異なる視点や異なる考え方があることの方が、深まりが出てきます。一面的な考え方や同じ思考の傾向の中では、情報の整理や分析も画一的になりやすいです。三つ目は、地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることが、相手意識を生み出したり、学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出したりすることです。共に学ぶことが個人の学習の質を高め、同時に集団の学習の質も高めていくことにつながります。

3　カリキュラム・マネジメントの中核としての総合的な学習の時間

各学校においては、「各学校における教育目標」と「総合的な学習の時間の第１の目標」を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定め、その実現を目指さなければなりません。この目標は、各学校が総合的な学習の時間での取組を通して、どのような児童生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのか等を明確にしたものです。

具体的には、第１の目標の構成に従って、以下の二つを反映させることが、その要件となります。

（1）「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」という、目標に示された基本的な考え方を踏まえること。

（2）育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つのそれぞれについて、第１の目標の趣旨を踏まえること。

各学校において目標を定めることを求めている理由は次のとおりです。

①各学校が創意工夫を生かした探究的な学習や横断的・総合的な学習を実施することが

期待されているから

②各学校における教育目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を明確に示すことが望まれているから

③学校として教育課程全体の中での総合的な学習の時間の位置付けや他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、この時間で取り組むにふさわしい内容を定めるため

上記②により、総合的な学習の時間が各学校のカリキュラム・マネジメントの中核になることが今まで以上に明らかとなりました。

4　児童生徒の学習経験（小・中・高等学校の接続）への配慮

総合的な学習の時間が充実するために、児童生徒の学習経験を十分に配慮し、小・中・高等学校の接続を視野に入れ、連続的かつ発展的な学習活動が行えるよう目標を設定することが重要です。

指導計画を作成するに当たっては、当該学年までの児童生徒の学習経験やその経験から得られた成果について事前に把握し、その経験や成果を生かしながら指導計画を立てる必要があります。

総合的な学習の時間に初めて取り組む小学校第３学年の場合は、生活科など低学年における学習経験について把握するとともに、生活科等の学習活動とこれから行う総合的な学習の時間の学習活動の関連性についてもあらかじめ確認しておくこと、また、中学校第１学年にあっては、小学校における学習経験について把握しておくことが大切です。

例えば、小学校段階で高齢者の福祉施設を訪問し、交流活動を行ってきた生徒の場合は、様々な立場から高齢者の福祉について考え、現実の中に起きている福祉の問題をより深く理解していきます。そこでは、幅広く多面的に高齢者の生活やそれを支える人々について考えたり、福祉の現状や問題点などについて追究し、自己の生き方を考えたりする学習活動などが考えられます。

このように類似の活動を繰り返す場合には、学ぶことが期待される内容が当該学年の児童生徒に合致しているか、繰り返し取り組むことによる学習の質的な高まりはあるか、などについて十分な検討を行うことが必要です。

そのためには、校区内（地域内）の小学校、中学校、高等学校が情報共有をしながら、授業改善を進めていく必要があります。

5　参考資料について

総合的な学習の時間を充実させるために、下記に示す資料を参考にすることができます。

○「今、求められる力を高める総合的な学習の展開（小学校編）」

（文部科学省、令和３年３月）

- 探究的な学習の指導のポイント　p 24 ～ 54
- 全体計画の作成　p 61 ～ 77
- 年間指導計画の作成　p 78 ～ 88
- 単元計画の作成　p 89 ～ 105
- 総合的な学習の時間の評価　p 106 ～ 114

○「今、求められる力を高める総合的な学習の展開（中学校編）」

（文部科学省、令和４年３月）

- 探究的な学習の指導のポイント　p 24 ～ 57
- 全体計画の作成　p 67 ～ 85
- 年間指導計画の作成　p 86 ～ 96
- 単元計画の作成　p 97 ～ 113
- 総合的な学習の時間の評価　p 114 ～ 122

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校　総合的な学習の時間）

（国立教育政策研究所、令和２年３月）

- 単元の評価規準の作成のポイント　p 40 ～ 45
- 学習評価に関する事例　p 46 ～ 79

○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校　総合的な学習の時間）

（国立教育政策研究所、令和２年７月）

- 単元の評価規準の作成のポイント　p 40 ～ 45
- 学習評価に関する事例　p 46 ～ 69

（参考）それぞれの資料掲載 URL

文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1326947.htm

国立教育政策研究所　https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

Ⅲ　探究的な学習の過程（充実のポイント）

1　探究的な学習の過程における児童生徒の姿

探究的な学習を展開するためには、学習過程が以下のようになることが大切です。

①	課題の設定	体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
②	情報の収集	必要な情報を取り出したり収集したりする
③	整理・分析	収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
④	まとめ・表現	気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する 自分の学習を振り返る、未解決のことを整理する

※（上記の表でいう）「情報」とは、判断や意思決定、行動を左右する全ての事柄を指し、広く捉えている。言語や数字など記号化されたもの、映像や写真など視覚化されたものによって情報を得ることもできるし、具体物との関わりや体験活動など、事象と直接関わることによって情報を得ることもできる。※1

上記のような学習過程は、いつも①～④が順序通りに繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあります。また、1つの活動の中に①～④の活動のうち、いくつかが一体化して同時に行われることもあります。

この学習過程は何度も繰り返され、高まっていきます。

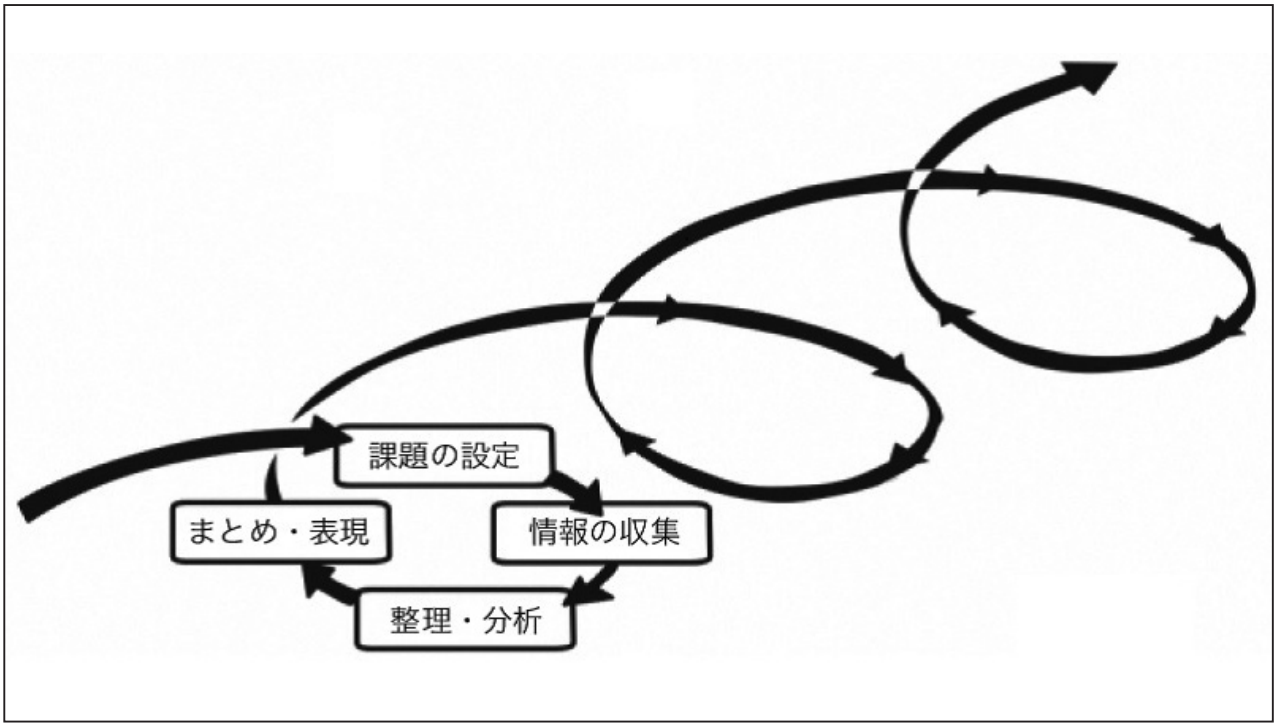


図1　探究的な学習における児童生徒の学習の姿※2

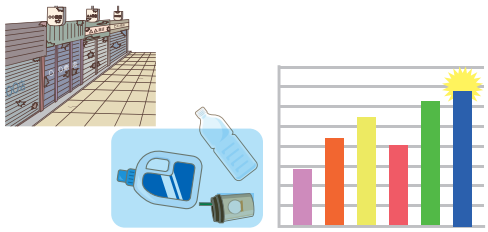
※1　文部科学省「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」P114
※2　文部科学省「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」P9　を参考に作成

2　探究的な学習を充実させるためのポイント

（1）課題の設定

【対象や事象との出合い】

これまでに学習してきたことの振り返りから

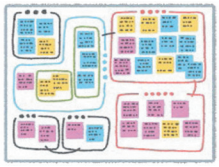


今の状況と理想の姿、資料やデータ等との比較から

地域の人や専門家との交流や体験から

【気付きや疑問の共有】

「不思議だ」「どうしてだろう」「なぜだろう」という疑問



「気になるな」「おかしいな」という違和感

「意外だった」「知らなかった」という驚きや憧れ

【課題の設定】

「○○について詳しくを調べたい！」

「○○の理由（原因）を調べよう！」

「どうして○○なのだろうか？」

「どうすれば○○できるのだろうか？」

☆ポイント☆

○事前に児童生徒の発達の段階や興味・関心を適切に把握すること
○人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関わり方や出合わせ方等を工夫すること
○これまでの児童生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせるように工夫すること

ドジョッち

オロッち

・児童生徒が、地域の教育資源「ひと・もの・こと」にどのように出合うかがポイントです。
・地域の教育資源「ひと・もの・こと」にどのようなものがあり、どのような価値を持っているかを知ることが重要です。

探究的な学習を充実させるために、地域の「ひと・もの・こと」を有効に活用するポイントを、「ふるさと教育」のイメージキャラクターであるわたしたちが案内しています。

《体験活動での気付きや対象への憧れから》

○Ａ町（商店街）とＢ町（商店街）を探検する
○身近な河川で生き物を探索する
○飼育栽培やものづくり体験を行う
○地域に暮らす人（公民館長・高齢者・外国の人・Ｉターン、Ｕターン者等）の思いや願い等を聞く
○地域の祭りや行事に参加し、携わる人の思いや願い等を聞く
○伝統芸能や工芸品に携わっている人の技術や思いにふれる

松江市立秋鹿小学校

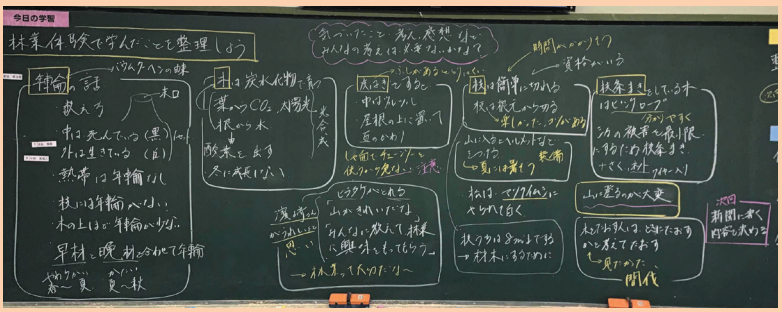
公民館長さんや県議会議員さんから、地域の現状や課題を聞いている様子

益田市立益田東中学校

公民館体験を行っている様子

事前の下見や打ち合わせ等を十分に行い、活動のねらいや視点を明確にすることが大切です。

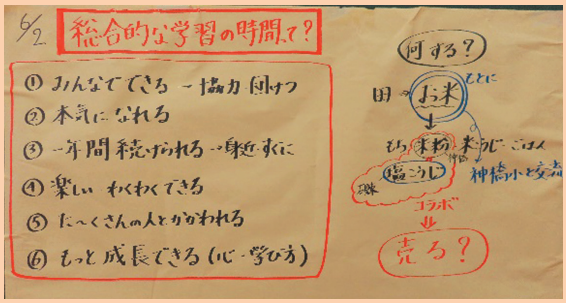
活動の前に予想や仮説を立てておくことで、実際との「ずれ」に気付きやすくなります。

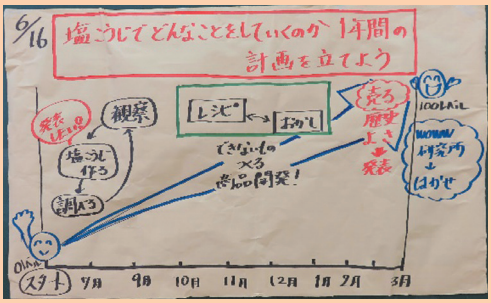


出雲市立北陽小学校

体験活動等を通して生まれた気付きや疑問を枠で囲む等して類型化している板書

まとまりごとに分け、タイトルやキーワードを付けていくとよいです。





邑南町立石見東小学校

1年間の活動の見通しをもつことで、児童生徒の主体的な学びにつながります。

昨年度の活動を振り返り、1年間の活動の見通しを立てた板書

《資料やデータの比較、統計資料の推移等に着目して》

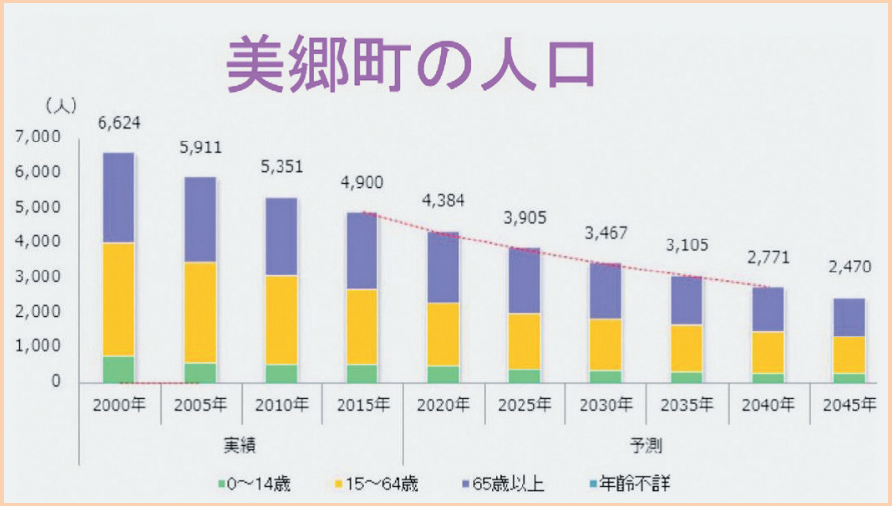
○時間での比較
- 昔の河川と今の河川の様子
- 今の祭りと将来（理想）の祭り

○統計資料の推移
- 人口の推移
- 作付面積の推移

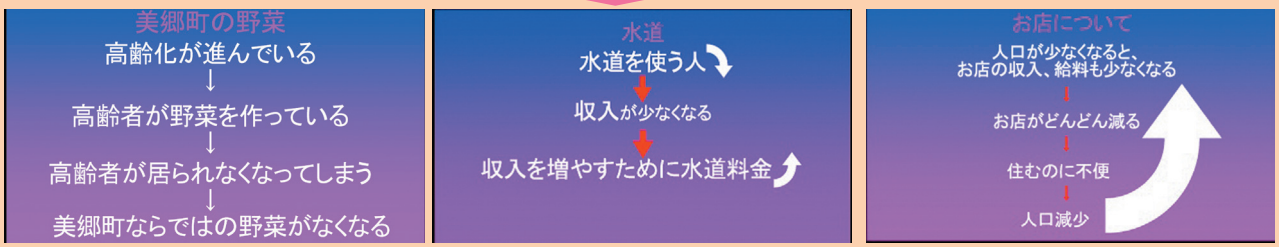
○空間での比較
- A 観光地（観光客数）と B 観光地（観光客数）
- 河川の上流と下流の様子
- 魅力度ランキング

予想と実際のデータとの間に「ずれ」や「隔たり」が生じるような統計資料を工夫しましょう。

２つの資料を提示し比較することで疑問が生まれやすくなります。資料の差異点や共通点からその原因を考えたりすることで課題を設定しやすくなります。



グラフなどの統計資料の推移に着目することで、今後の予測をしたり、問題点を見つけたりすることができます。

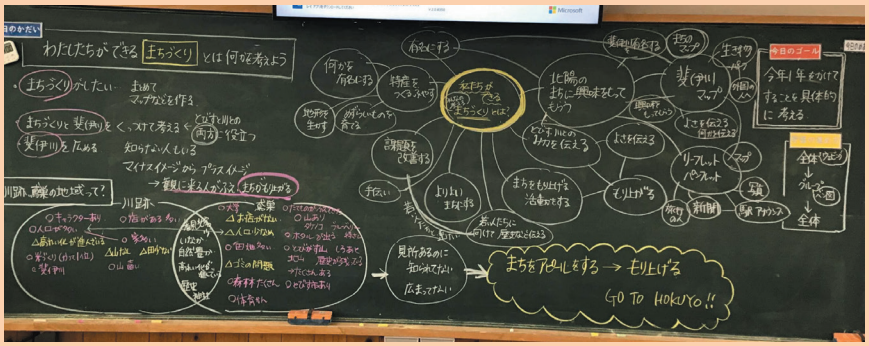


グラフの推移から今後の町の変化を予想する取組

美郷町立邑智中学校

《ウェビングでイメージを広げたり関連付けたりして》

ウェビングを使ってテーマについてのイメージを広げて、そのテーマを様々な視点から捉えたり、具体的に捉えたりしていくことで課題を設定することができます。



出雲市立北陽小学校

「私たちができるまちづくり」を中心にしたイメージ（ウェビング）マップの実際

（2）情報の収集

【目的や内容を考える】

私たちが解決したいことは何だろう。

○○を解決するためには、何について調べるといいかな。

まずは、○○の理由（原因）を調べよう。

実際の様子を確かめたいな。

○○に対する、他の人の思いや考えを集めよう。

【収集の方法を考える】

図鑑や事典を使って調べられそうだ。

その人に会って、直接、聞いてみよう。

アンケートをとって、たくさん情報を集めよう。

現地へ行って、写真や動画で記録しよう。

自分たちで飼育や観察、実験をして確かめよう。

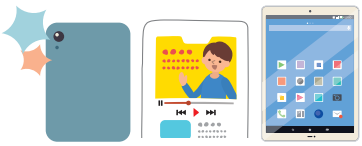
【蓄積の方法を考える】

情報カードに記録して、ファイルに保管しよう。

日付や時間の順番に並べよう。

情報の種類ごとにフォルダを分けて整理しよう。

写真や動画は、タブレットに保存しておこう。



【情報を収集し蓄積する】

本・図鑑・事典

インタビュー

アンケート紙

ICT 機器の活用

調査・実験・体験

☆ポイント☆

○学習活動によって「数値化した情報」「言語化した情報」「感覚的な情報」など、収集できる情報の違いがあることを意識すること
○課題解決のための情報の収集を自覚的に行うこと
○収集した情報を適切な方法で蓄積すること
○各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集すること

ドジョッチ

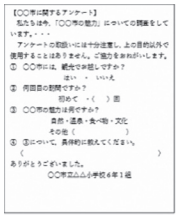
オロッチ

・地域には、「ひと・もの・こと」に関する様々な生きた情報があふれています。
・そうした情報に出合う方法や、出合わせくれる人に関する情報が必要です。

《書かれたものから》

目　的	方　法	ポイント
専門家や研究者等がどのようにまとめているか知る	・本　・事典 ・図鑑 	・出典を明らかにする ・著作権に配慮する
広範囲にわたる情報を瞬時に知る	・インターネット 	・情報の信頼性を確かめる ・著作権に配慮する
最新の情報や、特定の日に起こった出来事を知る	・新聞 ・リーフレット ・パンフレット ・「○○だより」等の配付物 	・発行元、発行日を明らかにする ・事実と感想を区別して記録する ・著作権に配慮する

《インタビューやアンケートから》

目　的	方　法	ポイント
様々な立場の人や専門家等から多様な思いや考えを直接聞く	・街頭インタビュー ・個人インタビュー （対面・メール・リモート等） ・学校に招待し、講話を聞く 	・対象や回答の目標数等を事前に決めておく ・メモを作成するなど、質問内容を吟味する ・必要に応じて、ICT機器を活用し、写真や動画、音声等の記録をとる
多くの人の思いや考えを集めて、その傾向をつかむ	・フリップボード 	・答えやすい質問内容を吟味する ・集計表とボードを一体化して結果を把握しやすくする
	・アンケート紙 ・WEB アンケート 	・目的や対象を明確にする ・答えやすい質問内容を吟味する ・回答期間を設定する ・短く、分かりやすい質問文にする

《実体験から》

目　的	方　法	ポイント
自然や社会の事物・現象から見いだした問題に対する予想や仮説を確かめる 客観的なデータを手に入れる	・検証方法を発想し、飼育・観察・実験・測定等を行う 	・検証の目的を明確にもつ ・自ら行える検証方法を考える ・信憑性の高いデータを収集する（平均値等）
目で見たり、雰囲気を感じたりすることで、実感が伴う情報を得る	・イベントや講演会、体験活動やものづくり活動への参加 	・参加する目的を明確にもつ ・必要に応じて、ICT機器を活用し、写真や動画、音声等の記録をとる

《集めた情報の集積》

目　的	方　法	ポイント
情報を再確認したい時や、自分の学びを振り返りたい時等に取り出す	・情報カードや付箋等に記入する ・インデックスやタイトル等をつけてファイルに保管する	・集めた情報は、時系列に集積する ・情報の種類や内容ごとにまとめておく
情報を再確認したい時や、自分の学びを振り返りたい時等に取り出す コンピュータを活用して、写真や画像の編集、グラフや表に加工する	・コンピュータに保存する ・情報の種類や内容ごとにフォルダを作成し、保存する 	・フォルダに名前をつけて、保存する ・コンピュータ内のソフトを効果的に活用する

美郷町立邑智中学校

地域に出かけて情報収集をする様子

（3）整理・分析

【集めた情報をもう一度吟味する】

どうやって集めた情報だったかな。

集めた情報の種類や内容には、どのようなものがあったかな。

どれくらいの情報が集まったのかな。

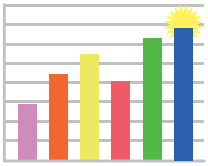
【どのような方法で情報の整理や分析を行うか考える】

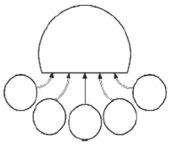
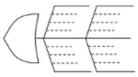
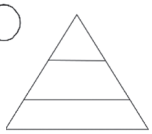
集めたデータをグラフや表に整理して、特徴や傾向をみつけよう。

思考ツールを使って、情報を比較したり、分類したり、関係付けたりしてみよう。

調べたことを地図上で整理してみよう。

【情報を整理・分析する】



【明らかになったこと、自分の考え、その根拠等を明らかにする】

～の良いところは○○で、△△が課題だね。

これなら、自分たちでもできそうだね。

予想は合っていて、○○だということが分かった。なぜなら…。

～という理由から、問題の原因は○○だと考えられるね。

予想と違ったぞ。なぜだろう？もう一度調べよう。

☆ポイント☆

○児童生徒自身が、集めた情報を吟味すること
- ・どのようにして集めた情報なのか
- ・どのような性格や内容の情報なのか
- ・客観的なデータ、または、公式に発表されているものなのか

○どのような方法で情報の整理や分析を行うのか決定すること
- ・数値化された情報　→　表やグラフなどにして特徴などを見つける
- ・言語化された情報　→　情報カードや付箋に書いて分類する、出来事を時間の経過に沿って並べる

○「考えるための技法」を意識して活用すること
- ・「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールを活用できるようにすること

ドジョッチ

オロッチ

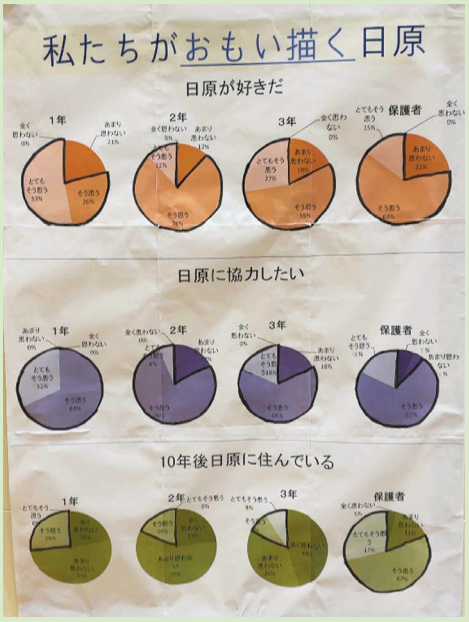
・情報を整理・分析するにあたり、異なった視点や価値観を持つ地域の人に出会ったり、専門的な知識や技術を持つ人と対話をしたりすることが有効な場合があります。

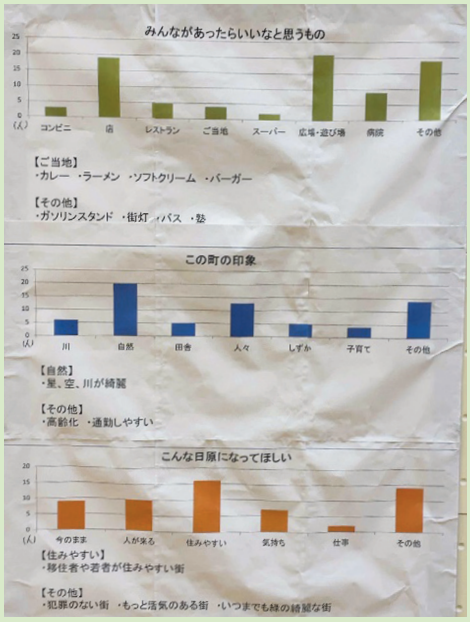
《地図などを用いて》

収集した情報を地図上に整理することで、事実や関係を見つけたり、傾向や偏りなどの特徴を見いだしたりすることができます。

美郷町立邑智中学校
写真提供：麻布大学フィールドワークセンター／おおち山くじら研究所

《グラフなどを用いて》



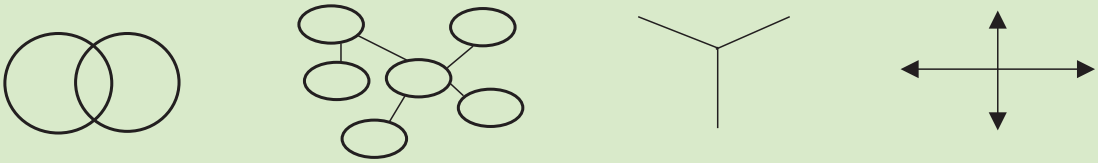


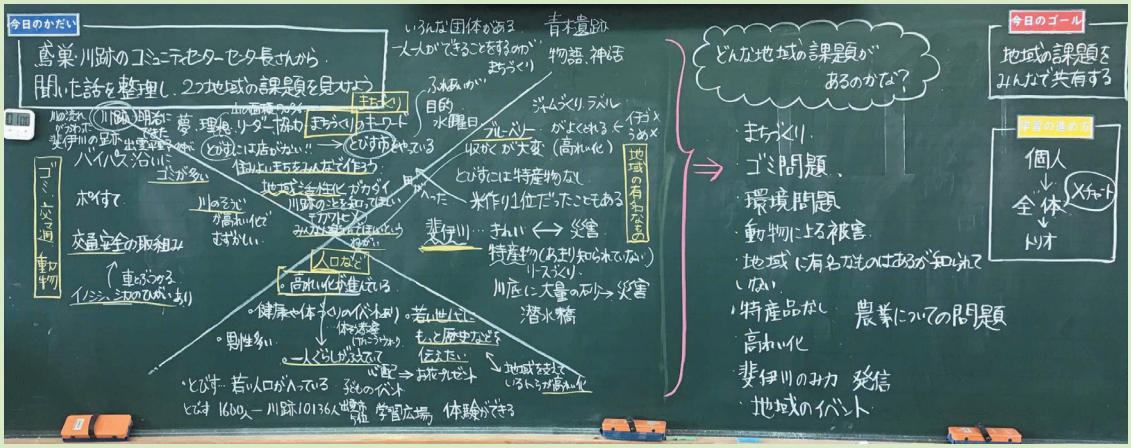
津和野町立日原中学校

グラフの特徴を踏まえながら、資料の整理の仕方を考えることが大切です。
「量」を表す
・棒グラフ
「変化」を表す
・折れ線グラフ
「割合」を表す
・円グラフ
・帯グラフ

思考ツールは、思考を可視化することで、いわば道具のように「考えるための技法」を意図的に使えるようにするためのものです。課題解決や話し合いの方向性を考えながら、思考ツールを積極的に活用してみましょう。

《思考ツールを活用して》

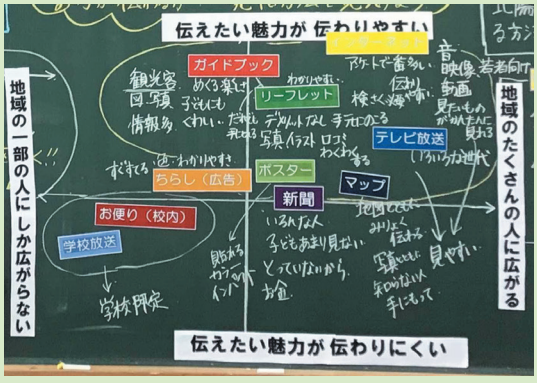




出雲市立北陽小学校

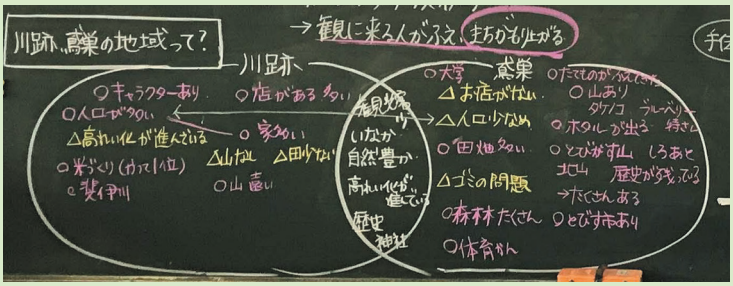
地域の課題について集めた情報をＸチャートに整理

Ｘチャートや Ｙチャートを用いて、視点にそって分類することで特徴がより明らかになります。



出雲市立北陽小学校

効果的な発信方法について座標軸に整理

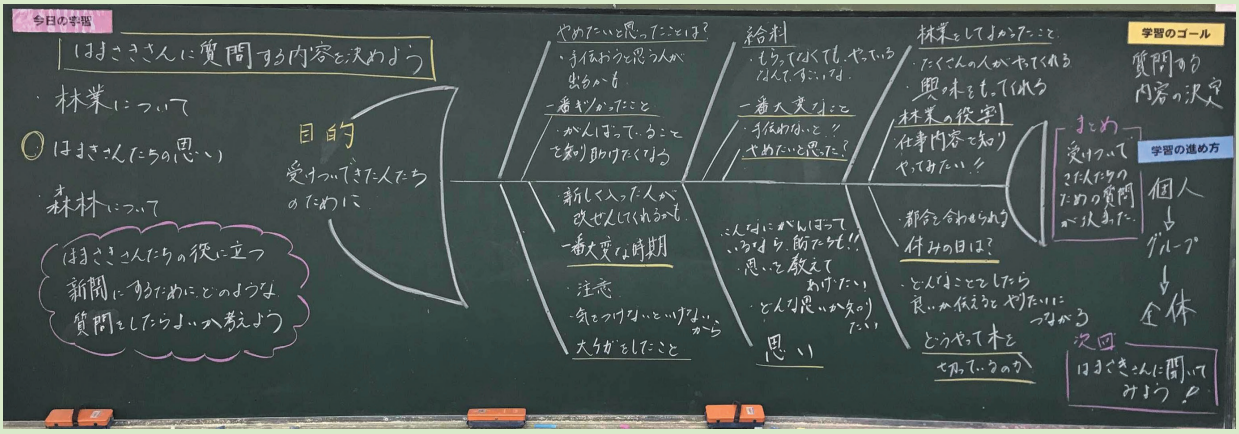


出雲市立北陽小学校

地域の特徴についてベン図に整理

座標軸を用いることで、複数の視点を組み合わせて情報の特徴を整理できます。

ベン図を用いることで、複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにすることができます。



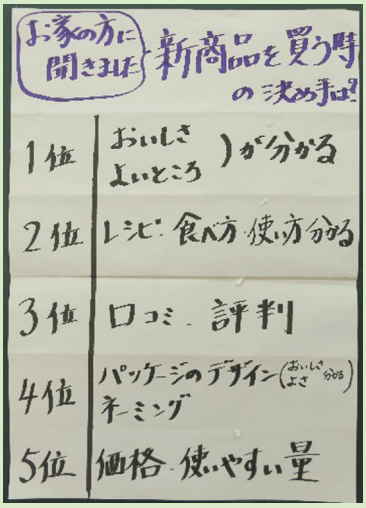
出雲市立北陽小学校

質問する内容をフィッシュボーンに整理

フィッシュボーン図を用いることは対象の原因や理由、根拠を見つけたり、見通しや予想を立てたりするのに効果的です。

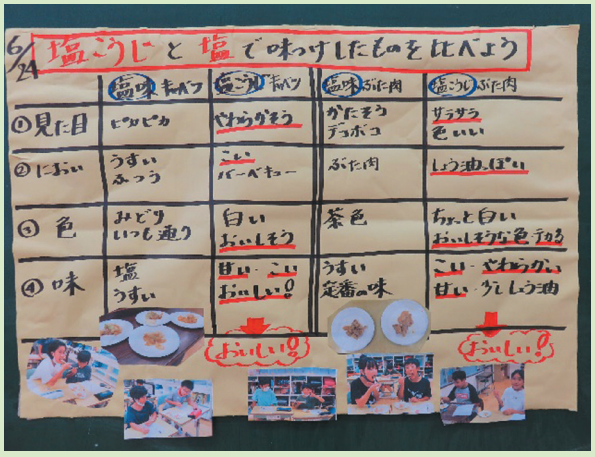
マトリックスを用いることは対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりするのに効果的です。

ランキングを用いた話し合いでは、順位の結果だけでなく、なぜそうなるか理由を考えながら交流することが大切です。



邑南町立石見東小学校

ランキングの活用



邑南町立石見東小学校

マトリックスの活用

※思考ツール例については、「（４）まとめ・表現」の後に掲載

（4）まとめ・表現

【相手意識や目的意識をもつ】

考えたことを、地域の人に知ってもらいたいな。

問題を解決するために、多くの人に呼びかけよう。

学習の成果を、先生やお家の人に聞いてもらいたいな。

【まとめたり、発信したりする方法を考える】

新聞やリーフレットにまとめて、たくさんの人に読んでもらおう。

プレゼンテーションソフトを使って、プレゼンをしよう。

劇化して、学習発表会で発表しよう。

【準備や練習を行う】

新聞にまとめる時の、レイアウトを考えないといけないね。

発表する順番など、発表内容の構成を考えよう。

リハーサルをして、改善点を話し合おう。

【まとめたものを発信したり、交流したりして、学習を振り返る】

地域の人たちが喜んでくれて良かった。これからも、地域の役に立ちたい。

地域のことに詳しくなれたのは、この学習をしたおかげだね。

新たな疑問が生まれたぞ。この課題を解決するために、次の計画を立てよう。

☆ポイント☆

○相手や目的を明確にしてまとめたり、表現したりすること
○情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚できるようにすること
○伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えるようにすること
○各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用すること

ドジョッち

オロッち

・まとめた内容を発信したり、実践したりする場を地域に置くと、より高い効果が生まれる場合があります。

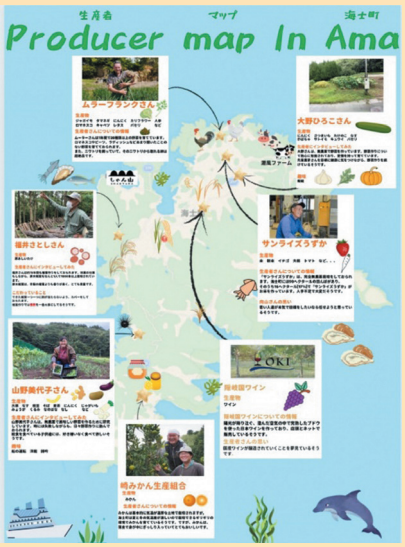
《新聞やポスターの作成》

出雲市立北陽小学校

NIEと連携し、新聞を発行

津和野町立日原中学校

ポスターセッションにより発表



海士町立海士中学校

取材したことをマップにまとめ、校舎内に掲示

新聞やポスターにまとめる際は、目的や相手等に応じて、内容、表現方法、情報量、構成等を工夫することが大切です。

各教科等で身に付けた表現方法を効果的に活用しましょう。

《ICTの効果的活用》

美郷町立邑智中学校

ICT端末を用いて、地域の方に説明している様子

美郷町立邑智中学校

インスタグラムで地域の魅力を発信

《保護者や地域への発信》

美郷町立邑智中学校

文化祭でプレゼン発表をしている様子

ICT を活用することで、国内外への多様な発信が可能となります。また、一人一台端末で手軽に加工を繰り返したり、学習の成果を蓄積したりすることも可能です。

写真を効果的に使うことで、活動の様子や臨場感を伝えることができます。

ICTの活用は、ICTを活用することが目的にならないように注意しましょう。

《ものづくりや社会参画》

海士町立海士中学校

給食の新メニューの開発

制作やものづくりを行うこと自体が目的化しないように、それを通して解決したい課題を明確にするようにしましょう。

安来市立比田小学校

サマーフェスタで開発したおやつの販売

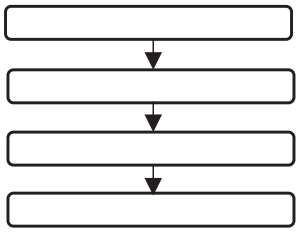
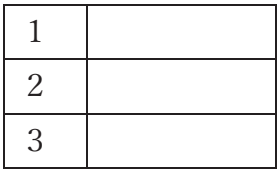
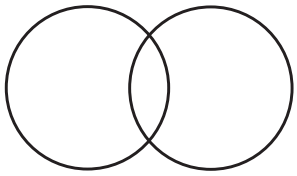
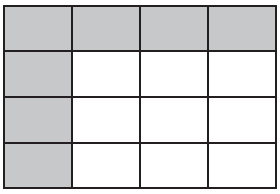
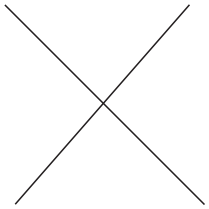
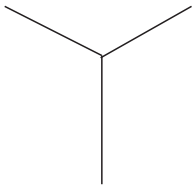
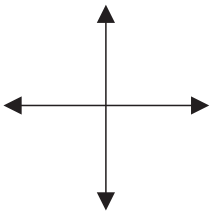
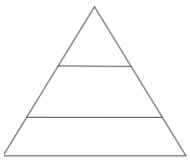
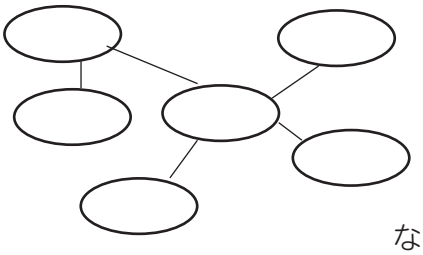
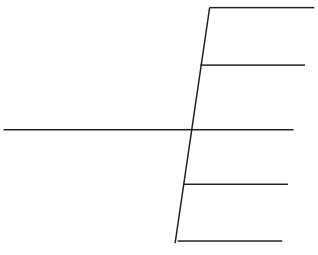
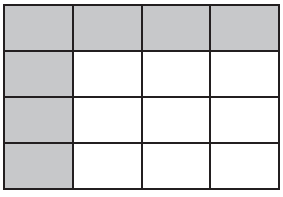
地域の人や専門家から助言を受ける場を設定することで、協働して取り組むことの大切さや地域社会に参画する喜びを実感することにつながります。

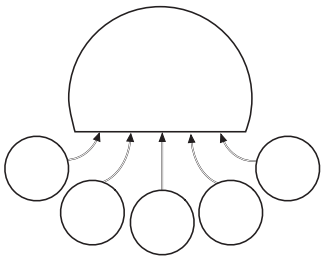
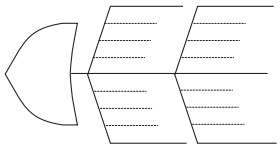
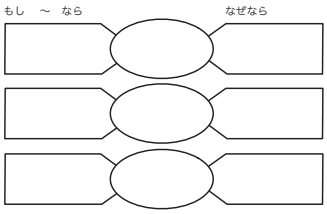
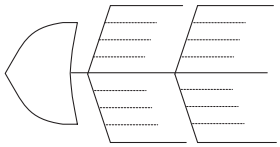
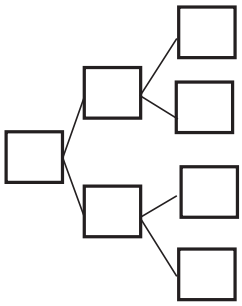
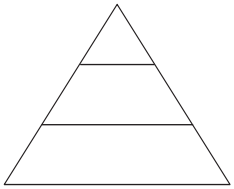
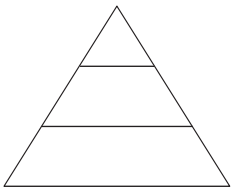
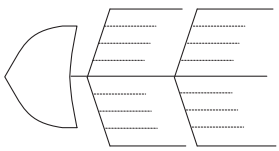
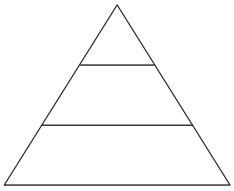
美郷町立邑智中学校

地域の方と協働して、「地域の竹や木の有効活用」という地域課題を解決するために生徒提案の竹を活用した遊具作り

思考ツールについて

思考ツールは、思考を可視化することで、いわば道具のように「考えるための技法」を意図的に使えるようにするためのものです。課題解決や話し合いの方向性を考えながら、思考ツールを積極的に活用してみましょう。

考えるための技法	主な思考ツール（例）
順序付ける 複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。	ステップ・チャート  ランキング  など
比較する 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。	ベン図  マトリックス（二次元表）  など
分類する 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。	Xチャート  Yチャート  座標軸  など
関連付ける 複数の対象がどのような関係にあるのか見つける。 ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。	ピラミッドチャート  イメージマップ  など
多面的・多角的に見る 対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。	くま手チャート  マトリックス（二次元表）  など

考えるための技法	主な思考ツール（例）
理由付ける **（原因や根拠を見つける）** 対象の理由や原因、根拠を見つけたり予想したりする。	**クラゲチャート**  **フィッシュボーン**  など
見通す（結果を予想する） 見通しを立てる。 物事の結果を予想する。	**キャンディチャート**  **フィッシュボーン**  など
具体化する **（個別化する、分解する）** 対象に関する上位概念・規則にあてはまる具体例をあげたり、対象を構成する下位概念や要素を分けたりする。	**ロジックツリー**  **ピラミッドチャート**  など
抽象化する **（一般化する、統合する）** 対象に関する上位概念や法則をあげたり、複数の対象を一つにまとめたりする。	**ピラミッドチャート**  など
構造化する 考えを構造的に整理する。	**フィッシュボーン**  **ピラミッドチャート**  など

［引用］黒上晴夫、小島亜華里、泰山裕「シンキングツール®　～考えることを教えたい～」
（短縮版）　2012 年　NPO 法人学習創造フォーラム　ks-lab.net/haruo/thinking_tool

Ⅳ　事例紹介

島根県内の総合的な学習の時間の事例として、５つの学校の取組を紹介します。いずれも「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった探究的な学習過程の充実に向けて、様々な工夫が試みられています。

事例①　出雲市立北陽小学校
総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムデザイン図を作成し、地域の「材」を生かして学級単位で取り組んでいる事例

事例②　松江市立秋鹿小学校
年間で１つの単元に取り組み、子どもの課題発見や企画立案を工夫した事例

事例③　益田市立益田東中学校
課題発見から企画・運営、振り返りまでを、公民館と連携しながら工夫した事例

事例④　美郷町立邑智中学校
打ち合わせシートや ICT を活用して、外部との連携を工夫した事例

事例⑤　海士町立海士中学校
職場体験を課題解決型の学習に工夫した事例

実践事例の中で、地域の「ひと・もの・こと」が有効に活用されている場面を、「ふるさと教育」のイメージキャラクターであるわたしたちが案内しています。

【課題の設定】

・児童生徒が、地域の教育資源「ひと・もの・こと」にどのように出合うかがポイントです。
・地域の教育資源「ひと・もの・こと」にどのようなものがあり、どのような価値を持っているかを知ることが重要です。

【情報の収集】

・地域には、「ひと・もの・こと」に関する様々な生きた情報があふれています。
・そうした情報に出合う方法や、出合わせくれる人に関する情報が必要です。

【整理・分析】

・情報を整理・分析するにあたり、異なった視点や価値観を持つ地域の人に出会ったり、専門的な知識や技術を持つ人と対話をしたりすることが有効な場合があります。

【まとめ・表現】

・まとめた内容を発信したり、実践したりする場を地域に置くと、 より高い効果が生まれる場合があります。

事例①　出雲市立北陽小学校（第３学年）

単元名
地域の人のために　竹のムダをなくして　みんな笑顔いっぱい！

内容のまとまり
「ものづくり・文化」
（全 70 時間）

1　単元の目標

竹の特徴や活用方法を調べたり、竹灯籠を作ったりすることを通して、地域の自然の豊かさや地域の人々の思いや知恵に気付き、地域の人に喜んでもらうために自分たちにできることを考えて行動できるようにする。

小単元 4　学んだことを伝え、これから自分たちにできることを考えよう。(28)

小単元 3　地域の方に喜んでもらえる竹灯籠を作ろう。(18)

小単元 2　地域のために竹を活用する方法を考えよう。(20)

小単元 1　地域のためにどんなことをしたいか考えよう。(4)

ドジョッチ　オロッチ

2　指導の計画（70 時間）

小単元名（時数）	探究過程	学習活動
1　総合的な学習の時間で北陽のまちの役に立つとは (4)	課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 課題の設定	・２年生までの生活科等で学んだことを話し合う。 ・これから学びたいこと、目指す姿について確認する。 ・地域のためにどのような活動をしていくのか考える。 **小単元１の振り返り** みんなで決めた思いや願いを大切にして活動していきたいな。これから、総合的な学習の時間にどのようなことをすればいいのかな。
2　地域のために竹を活用する方法を考えよう (20)	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 課題の設定	 ・筍掘り、竹林の見学会、竹の学習会などを通して、地域に自生する竹について知る。 ・地域の安全を守り、地域の人に喜んでもらうため、増えすぎた竹の活用方法を考える。 ・竹の特徴や活用方法について情報を集め、整理する。 ・竹の活用方法についてワークシートにまとめる。 ・保護者と共に竹箸を作り、気付いたことや考えたことを伝え合う。 ・竹箸作りで発見した課題から竹をどのように活用するか考える。 **小単元２の振り返り** 竹の特徴や種類、活用方法などたくさんのことが分かったよ。 大人の力を借りれば、竹は加工しやすくなることも分かったね。竹で何かを作って、地域の方に喜んでもらいたいな。

<table>
<tr>
<td>3　地域の方に喜んでもらえる竹灯籠を作ろう。(18)</td>
<td>課題の設定

情報の収集

整理・分析

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現</td>
<td>・竹箸作りの体験から専門家の力が必要だと気付き、今後の活動をどのように進めるか考える。
・インターネットや新聞記事を活用して竹灯籠について調べる。
・地域の竹灯籠作りの専門家と共に竹灯籠を作る。
・竹灯籠作りから気付いたことを整理し、次の竹灯籠作りに向けて疑問点や工夫すべき点を考える。
・各地の竹灯籠作りの情報をインターネットで集める。
・竹灯籠のデザインや大きさを考える。
・自分たちが作りたい竹灯籠を専門家と共に作る。

・学校の先生に完成した竹灯籠を見てもらい、アンケートを実施する。
・アンケート結果や感想を整理し、自分たちの竹灯籠のよい点や課題について話し合う。
・整理した情報をもとに、デザインを再考する。
・専門家の指導のもと再び竹灯籠を作り、コミュニティセンターに展示してもらう。

小単元３の振り返り
作った竹灯籠についてのアンケートやインタビューの情報を整理・分析して、どうしたら地域の方に喜んでもらえる竹灯籠になるかをみんなで考えることができてよかったな。みんなで作った竹灯籠で地域の方に喜んでもらいたいな。</td>
</tr>
<tr>
<td>4　学んだことを伝え、これから自分たちにできることを考えよう。(28)</td>
<td>課題の設定
情報の収集
整理・分析
まとめ・表現
情報の収集
整理・分析
まとめ・表現</td>
<td>・アンケート結果やこれまでの取組をもとに、「総合発表会」で伝えたいことを考え、発表内容を決める。
・２年生や他学級に行ったリハーサルを踏まえ、発表を改善する。
・学習の成果を「総合発表会」で伝える。
・「総合発表会」のアンケートをもとに、学習の成果を振り返る。
・総合的な学習の時間に身に付いた力や、これから自分たちにできることについて考え、単元全体を振り返る。

小単元４の振り返り
地域の方のおかげでいろんなことが分かったね。どんな竹灯籠にするとよいか考えたり、デザインや大きさなどを工夫したりすることができたね。
竹灯籠が地域の方に喜んでもらえてよかったね。この活動をこれから地域に広めていきたいな。他のことでももっと地域に関わっていきたいな。</td>
</tr>
</table>

「ものづくり・文化」　地域の人のために　竹のムダをなくして　みんな笑顔いっぱい！【小学校第３学年・全 70 時間】

ポイント 1　学級単位で地域の「材（教育材）」を生かした単元を構想する

●北陽小学校では総合的な学習の時間と生活科を学級単位で展開しています。総合的な学習の時間を学級単位で実施することにより、児童主体の学びや切実感のある対話を生み出す学習活動を実現しようとしています。

●総合的な学習の時間の学年テーマを決めた後、学級ごとに「材（教育材）」を設定し、単元を構想します。低・中・高学年に分かれてチームを組み、各学級の単元構想について検討会を行います。学級ごとに総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムデザイン図（単元配列表）を作成し、学年部で定期的に見直しを行いながら学習を進めます。昨年度の実践事例や地域人材を紹介し合い、単元づくり、授業づくりに生かしています。夏季休業中には外部講師を招いた研修会を実施し、授業者（各担任）が総合的な学習の時間の理解を深められるようにしています。

４月	研究構想の共通理解 「材」の研修会 実践共有の会
６・８月	思考ツール研修会
８月	外部講師による校内研修会

夏季休業中の外部講師による校内研修会

●第３学年の学年テーマは「ものづくり・文化」です。地域に自生する「竹」を学年共通の「材」として学習を進めていますが、竹の活用の仕方には学級ごとに違いがあります。どの学級も地域のために何をしたらよいかを考えて学びを深めています。

３年１組　竹灯籠　　３年２組　竹楽器
３年３組　竹のおもちゃ　　３年４組　竹の様々な活用法

カリキュラムデザイン図（単元配列表）　３年１組

ポイント 2　体験活動や地域の人々との交流を意図的・計画的に取り入れ、児童の思いや願いを実現する単元をつくる

●小単元１では、生活科で学んだこと、総合的な学習の時間を通してかなどを考え、伝え合います。総丁寧に理解させ、児童の思いや願接点を探りながら、児童主体で学ます。

●小単元２では、筍掘り、竹林の見活動を意図的・計画的に取り入れ児童は、竹の特徴、地域に自生すいて理解を深めます。保護者と竹さを実感し、大人（専門家）の力

自分たちの力で竹を切る児童

とを振り返ってから、これから１年どんな力を付けたいか、何をしたい合的な学習の時間とは何かを児童にいと教師が想定している「材」との習計画や学級の「材」を決定してい

学会、竹の学習会など地域での体験ています。これらの体験活動を通してる竹とその課題、竹に関わる人々につ箸を作る体験では、ものづくりの難しの必要性に気付くことができます。

保護者との竹箸作り

●小単元３では、竹灯篭の製作にあたり、書籍やインターネット等で情報を集めます。また、地域の専門家と竹灯籠を試作したり、身近な大人の意見を整理・分析して作品を作り直したりします。どのような作品にするとよいか考え、試行錯誤を繰り返すことにより、児童の探究心が持続し、探究活動に深みが出ます。

専門家との竹灯籠作り

●小単元４では、「総合発表会」に向けて自分たちの学習活動の成果を再認識します。伝える内容、表現方法を工夫し、１年間の取組について他者から評価をもらうようにします。この単元でどのような力を身に付けることができたのか、これから学んだことをどんな場面でどのようにしたいか、地域の一員としてできることは何かなどをまとめます。

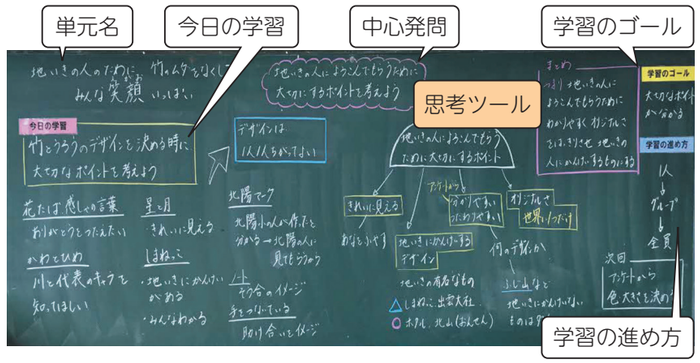
ポイント 3　児童の思考を深める授業を工夫する

●北陽小学校では授業で切実感のある対話を生み出すため、総合的な学習の時間と生活科の授業や板書のスタイルを設定しています。本時の中心発問を提示することにより話し合う課題を焦点化します。構造的な板書によって授業の流れや思考を可視化し、対話を深めるようにしています。

45 分の総合的な学習の時間・生活科の授業「北陽スタイル」

①めあての確認	今日の学習、学習のゴール、学習の進め方を確かめる。
②課題をつかむ	前時の振り返り（本時への思い）を伝え合い、本時の課題を明らかにする。
③深める	明らかになった課題について、思考ツールを活用するなどしてグループで解決する。
④振り返る	本時での自分の考えを整理し、次時につなげる。

板書の「北陽スタイル」



授業者より

★児童が本気で「話し合いたい！」と思うことができるように、実社会・実生活とつながりのある単元構想にすることを大切にしています。

★１学期に実施した小単元２では、様々な体験活動を通して多様な情報を収集することにより、その後の整理・分析を質的に高められるようにします。

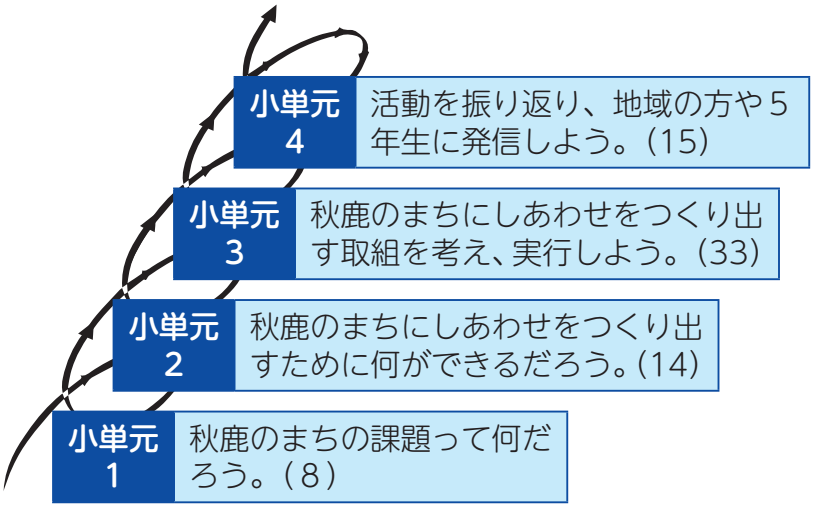
★異なる視点や考え方に出会わせる機会を設けることで、「材」に対する理解が深まり、学習活動を更に探究的なものに高めることができます。そのため、小単元３では先生方へのアンケートから厳しい意見をあえて取り上げ、児童に考えさせました。児童はこれまでにない考えに触れたことで、自分たちの竹灯籠作りを客観的に捉え直すことができました。

★地域の専門家から学んだり、級友と協力して学習したりすることにより、相手意識や学級の仲間意識が生まれ、学習の質が高まることを期待しています。

★児童の思考に沿った授業にするため、授業中の発言や毎時間行う振り返りの記述を丁寧に把握することを大切にしています。

事例②　松江市立秋鹿小学校（第６学年）

単元名　ふるさと秋鹿しあわせプロジェクト　（全 70 時間）



【単元の概要】

〈探究課題〉少子高齢化により地域が抱える課題と、それに向き合い地域を活性化する人々の取組

〈目標〉地域を活性化する活動を考え実行することを通して、地域の魅力や課題を知るとともに、地域の課題の解決には自分たちも含め地域への関心を高めることが大切であることに気付き、地域の一員として進んで行動できるようにする。

〈子どもの思い・願い〉子どもたちは、５年生の総合的な学習の時間に米作りに取り組み、できたお米を使って地域のよさを発信する活動を行った。この学習では、１年生の時から取り組んできたふるさと学習によって経験的に蓄積された秋鹿のまちのよさを再認識したり、その秋鹿のまちのよさを発信することの面白さを学んだりした。また、自分たちの取組の価値を確かめたり、人々の温かさに触れたりして、「秋鹿のまちのためになる活動をもっとしたい」という思いをより強くもった。

〈材の価値〉秋鹿のまちは、歴史ある神社・仏閣に加え、松江フォーゲルパークや秋鹿なぎさ公園といったレジャー施設、一畑電車の駅があり、松江市内だけでなく、県外からも観光客の訪れる場所である。一方で、地域住民の高齢化や若者世代の流出により、後継者問題や地域の世代間交流不足の問題などがある。これらの問題は、農業の担い手不足だけでなく、古くから伝わる伝統行事の継承者不足を引き起こしている。

子どもたちはこれまでに、秋鹿のまちのひと・もの・ことについて体験的に学ぶなかで、それらのよさを学んできた。しかし、その愛着ある地域が抱える課題についてはあまりよく知らない。自分たちが地域の課題について知り、地域の活性化に向けて何ができるか考え試行錯誤することで、目指す資質・能力を育成することができると考える。

【単元計画】※単元計画中の**学習過程におけるポイント１～ポイント３**の詳細は次ページに掲載しています。

小単元	学習活動・小単元で期待する子どもの姿
１　秋鹿のまちの課題って何だろう。（８時間）	・６年生の総合的な学習の時間で高めたい力について確かめる。 ・地域が抱える課題について考える。 **・秋鹿公民館長さんや県議会議員さんなど、地域の方から地域の課題や地域への思いを聞く。　学習過程におけるポイント１** ・自分たちが解決に向けて取り組みたいことや、地域の役に立つと思うことを話し合い、学習課題を設定する。 **小単元で期待する姿** 秋鹿のまちのよさをたくさん学んできたけど、まちが抱える課題もあるんだな。自分たちが活動することで解決できる取組はないかな。地域の活性化を目指した取組が課題解決につながるかな。

<table>
<tr>
<td>2　秋鹿のまちにしあわせをつくり出すために何ができるだろう。
(14 時間)</td>
<td>・自分たちの取組のゴールや目標を明確にして、※バックキャスティングの手法を利用して、具体的な内容について考えたり、解決に向けた学習の見通しをもったりする。 学習過程におけるポイント１
※バックキャスティング：未来のある時点に目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える手法
・地域の魅力や素材について調べ、それらを生かしたプロジェクトを考える。
小単元で期待する姿
秋鹿のまちのよさを生かして地域を活性化するために、どんなことができるのだろう。友達と相談し合うことで、自分にはない考えが見つかったな。</td>
</tr>
<tr>
<td>3　秋鹿のまちにしあわせをつくり出す取組を考え、実行しよう。
(33 時間)</td>
<td>・地域の活性化に向けて、先行事例を調べ必要な情報を収集する。
・フォーゲルパークや秋鹿なぎさ公園などで現地調査やインタビューを行ったり、フォーゲルパークやまつえ産業支援センターの方に自分たちの考えている取組についてアドバイスをもらったりする。
学習過程におけるポイント２

・自分たちのプロジェクトを決め、実行案をまとめる。
・自分たちのプロジェクトがそのように秋鹿のまちをしあわせにするのか分析し、よりよい取組になるように見直しを図る。
学習過程におけるポイント３
・プロジェクトの実施に向けて準備する。
・自分たちが考えたプロジェクトを地域で実践する。
学習過程におけるポイント２

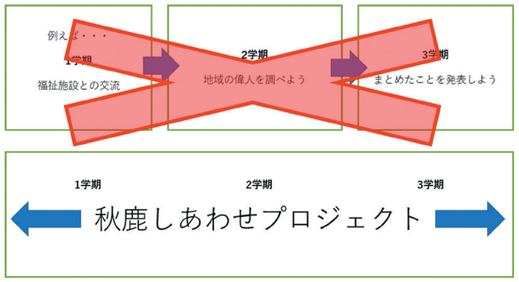
PR 動画の作成、点字パンフレット作成、ペンギン衣装コンテスト、フォーゲルパークでのスタンプラリー、二次元バーコード付きパンフレット作成
・取り組んだことの検証方法を考える。
小単元で期待する姿
秋鹿のまちのよさを生かして、地域を活性化するための取組を実行しよう。秋鹿のまちにしあわせをつくりだすことができたのだろうか。</td>
</tr>
<tr>
<td>4　活動を振り返り、地域の方や、５年生に発信しよう
(15 時間)</td>
<td>・自分たちの活動によって秋鹿のまちにしあわせがつくり出されたのかアンケートや聞き取り調査を行う。
・自分たちの取組の効果を検証したり、自分たちにどのような力が付いたのか振り返ったりする。 学習過程におけるポイント３
・地域の人や５年生に自分たちの活動を知ってもらうための報告会を行う。
・今年度の総合的な学習の時間で自分に付いたと思う力について話し合い、これから生かしていきたいことについて考える。
小単元で期待する姿
自分たちが取り組んできたことで、秋鹿のまちにしあわせがつくり出せたのだろうか。アンケートなどで調査して、その結果を地域の人や５年生に伝え、地域をもりあげよう。</td>
</tr>
</table>

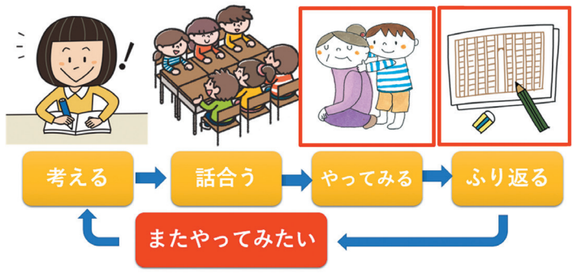
単元構想の工夫　年間で１つの単元を設定し、探究のサイクルを繰り返す単元構成にする

授業者談

子どもがワクワクするような総合的な学習の時間にしたいと思いました。子どもの「やってみたい」が生まれる学習過程の立案に向けて、年間指導計画や活動を見直して１つの大きな単元とし、子どもの中で探究のサイクルが複数回るようにしました。

子どもたちと最初に確認したのは、「地域を元気にするプロジェクトをしよう」ということで、そのために何をしたいかは子どもたちと考え、課題設定や情報収集といった子どもが試行錯誤する時間を大事にしました。

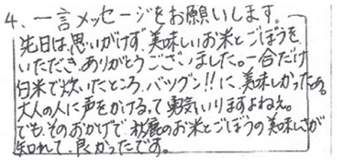


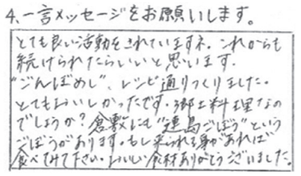


学習過程におけるポイント１　学びを自分ごとにするために課題設定を工夫する

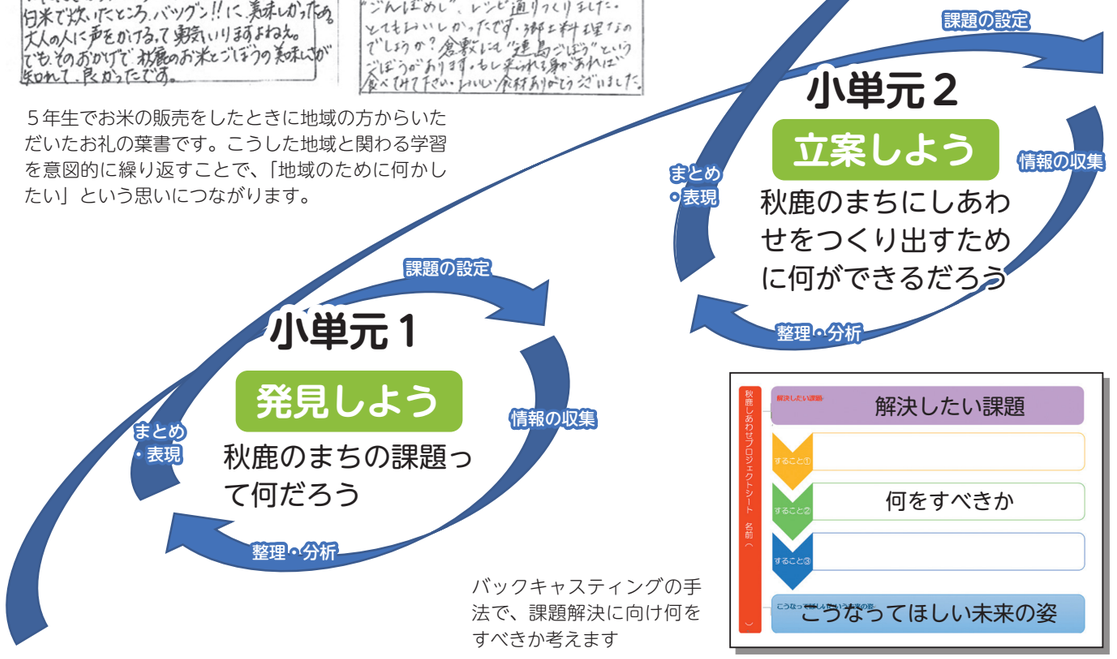
- 秋鹿公民館長さんや県議会議員さんなど、地域の方から地域の課題や地域への思いを聞く。
- 自分たちの取組のゴールや目標を明確にして、それに向けて何をすべきか見通しをもつ。

これまでの学習で、地域への愛着を深めていた子どもにとって、地域の方と交流し、地域の課題や地域への思いを聞くことは、「自分たちも地域のために何かしたい」という課題意識を高めることにつながります。また、学習の見通しをもって、計画をたてる場面を設定することは、子どもが主体的に学習に取り組むために有効です。





５年生でお米の販売をしたときに地域の方からいただいたお礼の葉書です。こうした地域と関わる学習を意図的に繰り返すことで、「地域のために何かしたい」という思いにつながります。

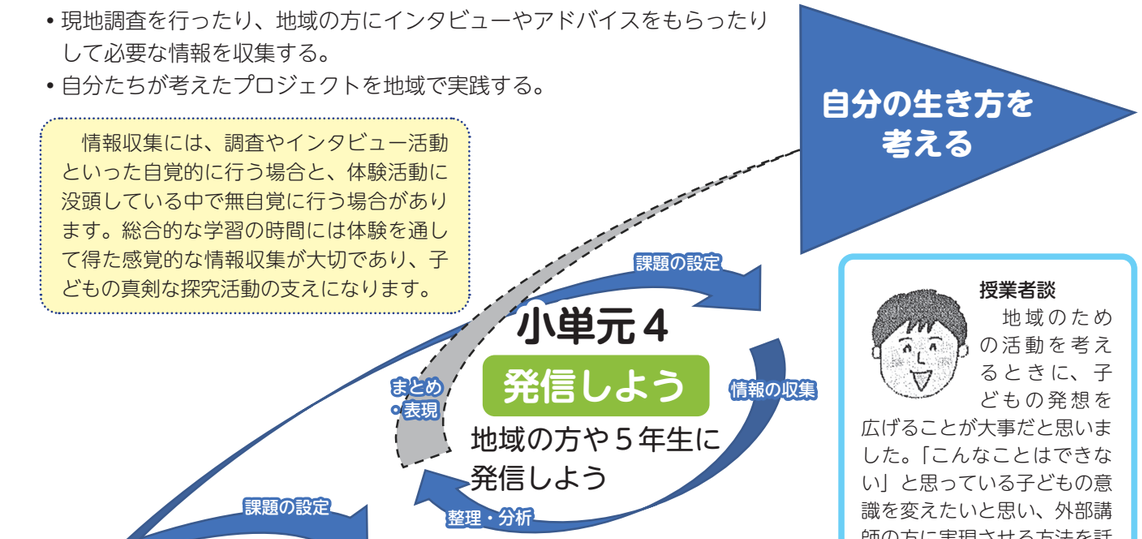


バックキャスティングの手法で、課題解決に向け何をすべきか考えます

学習過程におけるポイント２　地域に出かけての情報収集を工夫する

- 現地調査を行ったり、地域の方にインタビューやアドバイスをもらったりして必要な情報を収集する。
- 自分たちが考えたプロジェクトを地域で実践する。

情報収集には、調査やインタビュー活動といった自覚的に行う場合と、体験活動に没頭している中で無自覚に行う場合があります。総合的な学習の時間には体験を通して得た感覚的な情報収集が大切であり、子どもの真剣な探究活動の支えになります。



まつえ産業支援センターの方

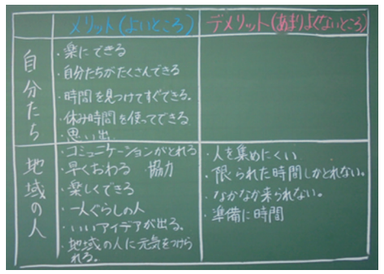
授業者談

地域のための活動を考えるときに、子どもの発想を広げることが大事だと思いました。「こんなことはできない」と思っている子どもの意識を変えたいと思い、外部講師の方に実現させる方法を話してもらいました。人を頼り、誰かと一緒に学習することの大切さに気付いてほしいと思い、その後も様々な人にインタビューをして情報を引き出す学習をしました。

学習過程におけるポイント３　思考場面を適切に位置づける

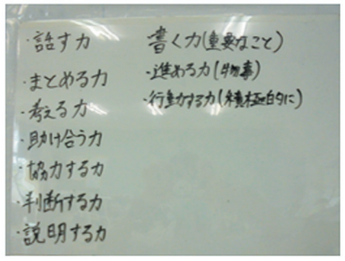
- 自分たちのプロジェクトがどのように秋鹿のまちをしあわせにするのか分析し、よりよい取組になるように見直しを図る。
- 自分たちの取組の効果を検証したり、自分たちにどのような力が付いたのか振り返ったりする。

考える技法を使うことで、話し合う目的が明確になり、話し合いが深まります。また、総合的な学習の時間にどのような力を付けたいか、あるいはどのような力が付いたのかを、子ども自身が意識することは、確かな資質・能力の育成に有効です。



自分たちのプロジェクトを、メリット・デメリットチャートを用いて分析することで、多面的に捉え直すことができます。

自分たちの取組を検証した後に、総合的な学習の時間を通してどのような力がついたのか、子どもが自分の学習を振り返ることで、自分の成長を自覚できます。



事例③　益田市立益田東中学校（第２学年）

単元名　「6（ろー）かるプロジェクト」　（全 50 時間）

〈益田東中学校の概要〉　令和３年度
●全校生徒数216名　●学級数10学級　●教職員数23名　●学区域の特色　文教地区、３小学校区を有する

【単元の概要】

〈探究課題（学習事項）〉　町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（地域の一員として、町づくりや地域活性化に関わろうとする活動や取組）

〈目　　標〉　公民館を中心とした地域活動の体験や交流を通して、活動意義や内容、地域の方の想いを理解し、その方々とつながることで、地域への愛着を深め、地域貢献の態度を養う。

〈主な学習内容〉　地域における公民館の役割を理解し、地域活動を実際に体験する事で、地域活動の充実のために自分たちができることを考え実行する。

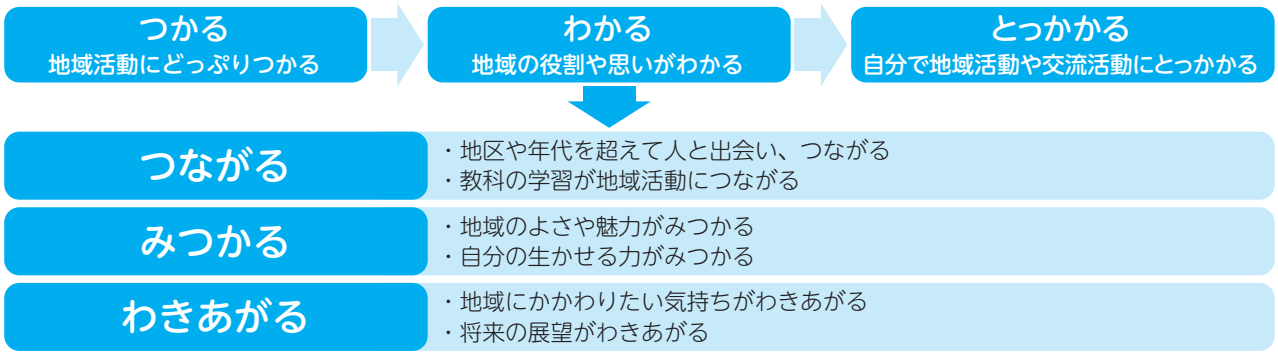
【本単元で目指す生徒の姿】（◎太字は特に意識して育てたい資質・能力）

思考力、判断力、表現力等	課題の設定	・体験を通して、地域で何ができるかを捉えることができる。
	情報の収集	・活動内容や地域の渡航書について知るために、インタビューやアンケートなどを行うことができる。
	◎整理・分析	**・複数の公民館の活動内容を比較・分類することができる。** **・地域ごとの活動の特色や課題を見いだすことができる。**
	まとめ・表現	・自分が考えた地域活動の意義や感じた工夫を、自分の言葉でまとめ表現することができる。
	振り返り	・相手意識を持って、自分たちの企画した活動が有意義だったかを振り返ることができる。
学びに向かう力、人間性等	主体性	・地域を活性化させる活動に関心を持ち、積極的に取材したり活動に参加したりしようとしている。
	協働性	・仲間だけでなく、地域の方々と協力することの意義や効果を理解し、話合い活動を通して課題に向かおうとしている。
	自己理解	・自分と地域との関わりを振り返ることができる。 ・自分ができる地域との関わり方を考えることができる。
	◎他者理解	**・地域活動にかかわる人々の想いを捉えている。** **・地域活動には様々なアプローチがあることを知り、それぞれの良さを理解しようとしている。**
	社会参画	・地域活動に積極的に関わろうとしている。 ・地域の課題を捉え、よりよい方法や工夫を考えて提案することができる。

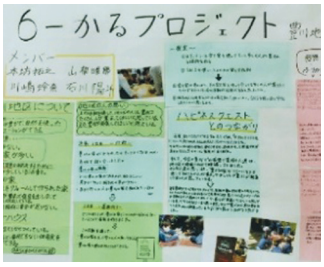
ポイント

活動することが目的にならないように、学習活動を通じてどんな生徒に育ってほしいかを明確にしています。また、そのことを生徒と共有することで、活動の意義を考えることができています。

「6かるプロジェクト」構想図



【単元計画】（丸枠内は期待する生徒の姿）

小単元	主な学習活動と学習のポイント
1　公民館ってどんなところなんだろう	・単元全体の見通しを持ち、学習に向かう意欲を高める。 ・自分が住む地域をどのようにしていきたいのかを考える。 ・各公民館の館長・主事の方から、それぞれの地区がどんな地域にしたいのかを聞き、そのために公民館ではどのようなことをしているのかを知る。 ・自分が体験してみたい活動を行っている公民館を設定する。 **ポイント**　地域を学びの場にする足がかりとして、公民館と連携をしています。単に「中学生の学びの補助」となるのではなく、地域で活動する大人たちと楽しみながら活動をしていこうという方向性を確認し、学習への動機付けを行います。
2　公民館での活動ってどんなことをしているんだろう 	・公民館体験①を行う。 ・どんな人がどんな内容の活動をしているのかを体験し、それを通して疑問に思ったことなどを質問し記録する。 ・自分が参加していない公民館の活動の様子を聞き、自分の体験と同じところや違いを整理する。 （・地域活動についてもっと知りたい、体験したい生徒は夏休みなどに参加をしてもよい。） ・「自分たちには何ができるだろうか」という視点を持ちながら、公民館体験②を行う。 **ポイント**　社会教育主事や社会教育コーディネーター等と連携して学習を計画していきます。まずは生徒が活動を体験することで、気づきを生徒に促し、それを今後の課題設定に生かしていきます。
3　地域の中で自分たちの力を生かせる活動ってどんなことだろう	・体験した活動や公民館主事の方、地域の方から得られた情報を整理し、活動する大人たちと一緒に企画する。 ・立案した企画を別の視点から見てもらい、アドバイスを受け、修正をする。 ・当日までに必要なもの・ことを確認し、分担して準備する。 ・共に活動する大人の方と話し合いながら、修正した企画を公民館で実施する。  ・活動について参加した方や共に活動した方々と感想を交流する。 ・一連の学習をまとめ、紙面発表する。 **ポイント**　経験したこと、他の公民館活動を経験した友だちからの話などを踏まえて、自分が地域のためにできる公民館活動を企画・運営します。実施後は自己評価に加え、今後の活動に生かせる振り返りを公民館や共に活動した大人とします。

単元のイメージ図（２年生の学習）

益田東中学校
生き方を考える３年間
（総合的な学習の時間）

1年
益田・広島の大人の話から、生き方を学ぶ
- 広島デアイタビ
- 益田校区キャリアウォーク

2年
地域とのつながりから、生き方を学ぶ
- 公民館体験

3年
社会の一員として、自分の生き方を考える
- 新職場体験学習
- カタリバ

計画した活動を実施する
（公民館での活動）

学びの往還

地域の中で自分たちができる活動ってどんなことだろう

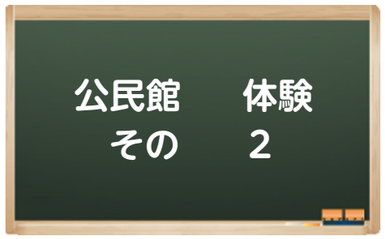
計画したことを実施し、その振り返りをまとめ、発表する

これまでの体験活動を通して計画を練る、必要な情報を得る

計画を市役所担当者等と一緒に磨き上げる

公民館での活動ってどんなことをしているんだろう

公民館活動を通して知ったこと等をまとめる



公民館活動に参加し、質問したり、意見交流したりする

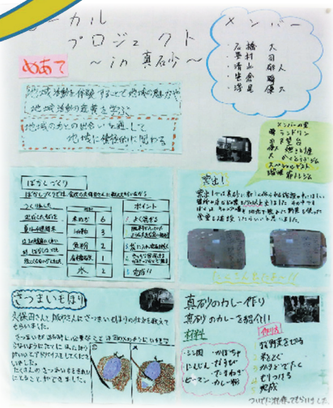
郷土料理作り
（公民館での活動）

学びの往還

盆踊りを習う
（公民館での活動）

他の公民館の様子を情報共有を通して知り、共通点や違いを整理する

公民館の方から話を聞く



活動したことをまとめる

公民館ってどんなところなんだろう
課題の設定

どの地区で活動をしてみたいかの思いを持つ
まとめ・表現

公民館活動のプレゼンを聞き、内容を知る、質問する
情報の収集

プレゼンを聞いてそれぞれの公民館について情報を整理する
整理・分析

事例④　美郷町立邑智中学校　（第３学年）

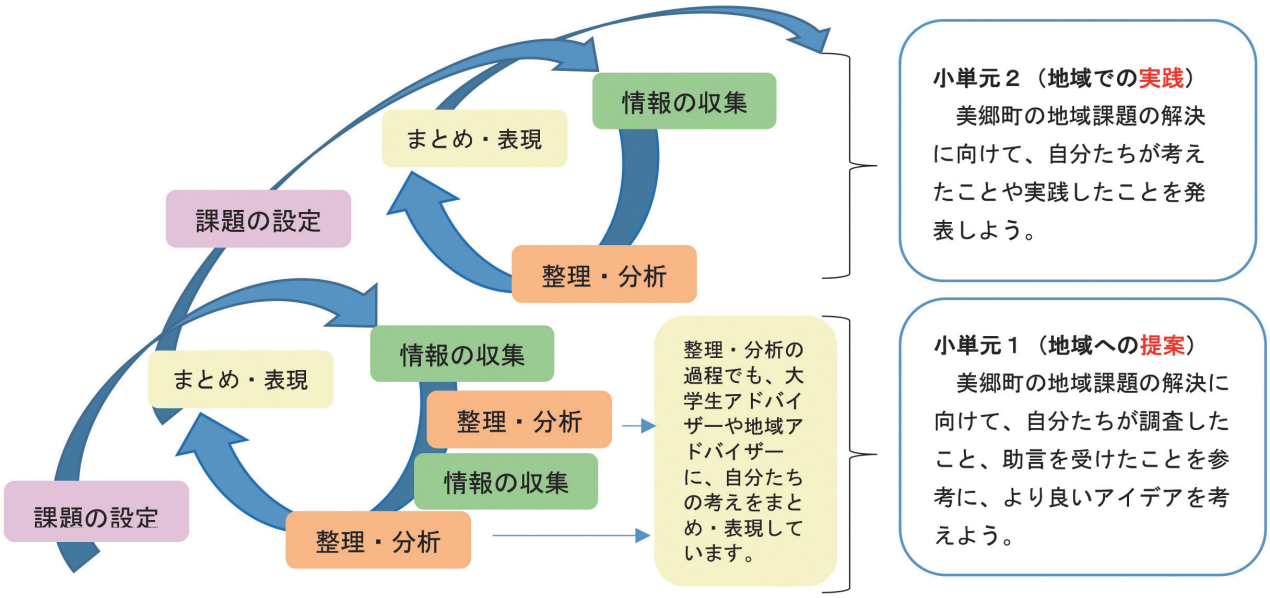
単元名　ふるさとを考える「美郷町の地域課題の解決に向けて」
～持続可能なふるさと美郷町のために、私たちに出来ることは何だろうか～

単元の計画（全30時間）

探究過程	小単元名	学習活動（時数）
「ふるさとを考える」のめあてや学習の流れを知ろう		・今後の学習への見通しをもつ。（１）
課題の設定	1 美郷町の地域課題の解決に向けて、自分たちが調査したこと、助言を受けたことを参考に、より良いアイデアを考えよう	・美郷町の各地域の課題について知り、自分たちで解決に向けて追究する課題を設定する。（２）
		・大学生アドバイザーと課題を共有する。（１）
		・地域課題解決に向けて、必要な情報を集めるための計画を立て、計画書を作成する。（１）
情報の収集		・地域アドバイザーの方へのインタビューを通して、地域課題の現状や、解決のために必要な情報の収集を行う。（１）
整理・分析		・大学生アドバイザーに向けての説明資料を作成する。（１）
		・大学生アドバイザーに向けて、地域課題の現状や今後の計画について、自分たちの考えを伝え、助言を受ける。（１）
		・大学生アドバイザーから受けた助言をもとに、地域アドバイザーに向けての説明資料を作成する。（２）
		・地域アドバイザーへの説明のプレ発表を行い、助言し合う。（1）
情報の収集		・地域アドバイザーの方へのインタビューを通して、地域課題解決のために自分たちで取り組める問題解決のプラン（以下、実践プラン）に必要な情報収集を行う。（１）
整理・分析		・収集した情報をもとに、実践プランを考え、資料を作成する。（２）
		・大学生アドバイザーに向けて実践プランの提案を行い、その後、助言を受ける。（１）
		・大学生アドバイザーから受けた助言と収集した情報をもとに、実践プランを練り直し、資料を作成する。（２）
		・大学生アドバイザーに向けて、再度実践プランを提案する。その後、助言を受け、修正する。（１）
まとめ・表現		・地域アドバイザーに、実践プランを提案し、助言を受けながら、課題解決のための手段を改善し、自分たちの考えた内容を全体に伝える。（１）
課題の設定	2 美郷町の地域課題の解決に向けて、自分たちが考えたことや実践したことを発表しよう	
情報の収集		・各グループの課題解決に向けて、地域の方々と一緒に、貢献活動やさらなる現地調査などに取り組む。（４）
整理・分析		・自分たちが取り組んだことを整理し、プレゼンテーション資料を作成する。（４）
まとめ・表現		・発表会をする。（２）
		・ふるさとの未来のために必要なことを振り返る。（１）

※本単元の単元目標、評価規準等については、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善プロジェクト事業（Ｒ１～Ｒ３年度）研究推進校の取組として、ＥＩＯＳに学習指導案が掲載されております。授業デザインマップとあわせてご覧ください。

ポイント①：探究的な学習の過程を意識



学習の対象となる地域を、美郷町全体から、公民館単位で生徒の居住地に近い身近な地域に絞り込みました。また、美郷町教育委員会の社会教育主事、地域学校支援コーディネーター、地域アドバイザーと連携を図り、「中学生には安易すぎず、難しすぎない」課題設定ができるように配慮しました。

小単元１では、大学生や地域の方と対話をしながら整理・分析して、足りなかった情報を再収集する活動を行いました。地域の課題に対して自分たちができることは何かを考えることで、課題が「自分ごと」となり、小単元２の実践活動につながりました。

大きな視点でみると、小単元１は、実践したことをまとめ・表現（報告発表）する小単元２の課題設定となります。活動を「地域への提案」のままで終えず、探究的な学びが連続した「地域での実践」になるようにしました。

「しまねの学力育成推進プラン」にも示されているように、「地域の課題は何か」を考え「課題解決のために何かをしよう」といった実行力につなげていくことが重要です。

ポイント②：外部と連携し、協働的に学ぶ

地域の方に説明

地域に出向いて情報収集

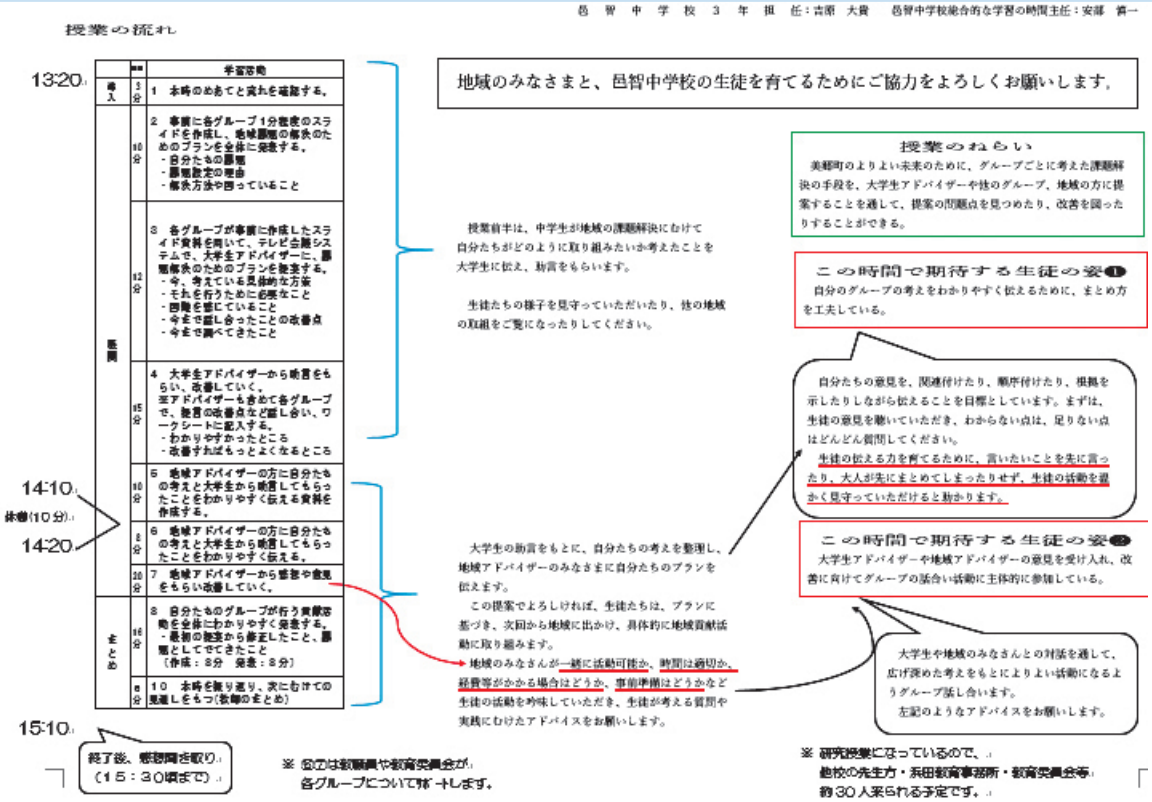
大学生とリモートで

「学習過程を探究的にすること」とともに「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」が探究的な学習を充実させるためのポイントです。生徒同士や地域の方との協働に加え、ICT を活用し大学生との協働も実施しました。この大学生との協働は、小学校から単学級で過ごした生徒にとって学習への意欲向上につながりました。

また、大学生は人文地理学が専門の作野広和教授（島根大学）のご指導の下、生徒の考えを引き出しながら地域づくりの視点で適切なアドバイスをしていました。地域課題については生徒同士では解決が難しかったり、毎年同じような取組になったりすることが多くあります。専門的な視点や、地域外の視点は探究を深めるために有効です。

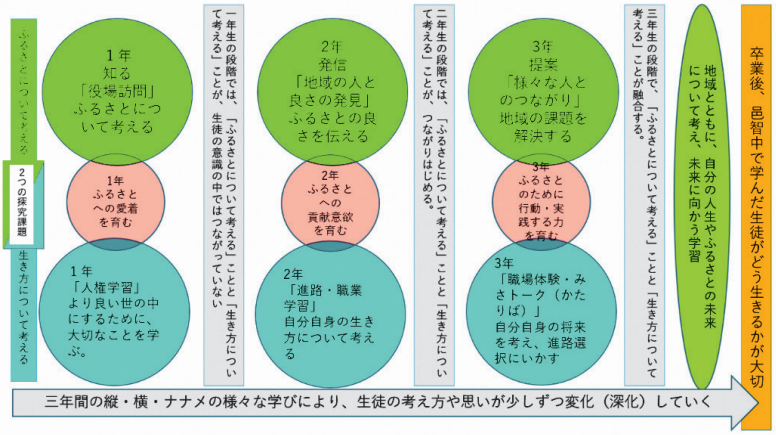
このような外部との連携には、適切な打ち合わせの実施が必要です。打ち合わせの内容については、「授業のねらいの明確化」「役割分担」「育成を目指す資質・能力についての共有」「事後の反省」「外部人材からの評価」がポイントです。このことは、「社会に開かれた教育課程」の観点からも大変重要です。

邑智中学校は次のような打ち合わせ資料をもとに、学校の担当教員と美郷町教育委員会の社会教育主事、地域学校支援コーディネーター、地域アドバイザーとで、適切かつ丁寧な打ち合わせを行うとともに、事後の振り返りも大切にしています。その際、上記で紹介したメンバーで役割分担をすることで、学校の負担軽減につながっています。



ポイント③：３年間を見通した全体計画の作成・実施

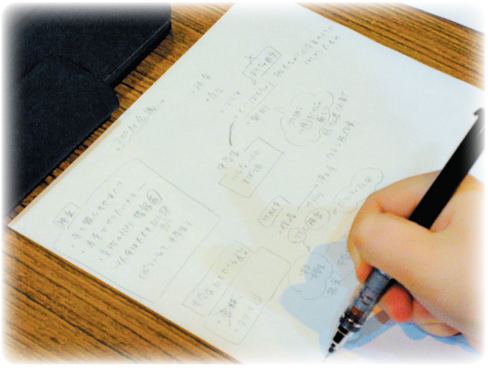
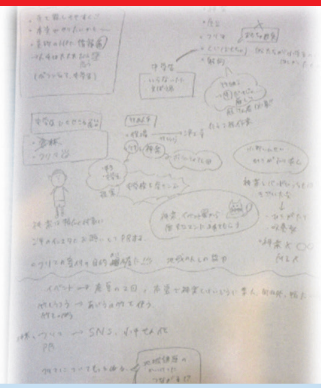
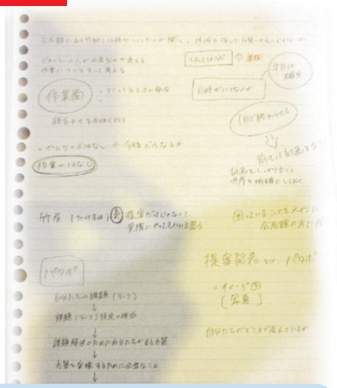
総合的な学習の時間ガイダンス



総合的な学習の時間の目標は、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成です。邑智中学校では、「ふるさとについて考える」「生き方について考える」という２つの探究課題を結びつけながら、３年間で系統的に学習するように見直しが図られました。

そうした邑智中学校としての、総合的な学習の時間の目標と活動内容を、教職員間で共通理解し、生徒にもガイダンスで示すことで、生徒は現在の生活や将来の希望と関連付けた振り返りができるようになりました。

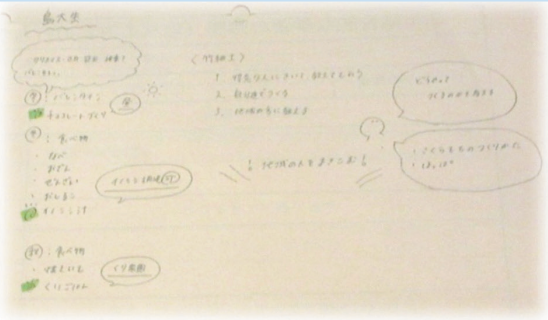
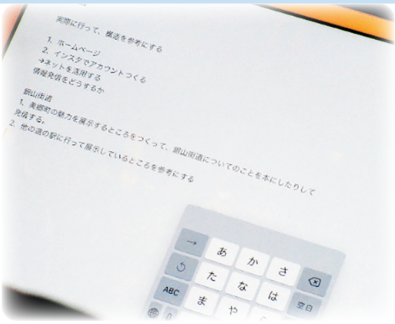
ポイント④：整理・分析における「考えるための技法」とＩＣＴの活用

総合的な学習の時間の授業では、地域の方や大学生と対話をしながら、「比較する」「関連付ける」「分類する」「順序付ける」「理由付ける」など様々な「考えるための技法」を用いてノートにメモをとったり、タブレット端末へ入力したりする姿が見られました。

邑智中学校では、考えるための技法を活用して図式化してまとめる「要約学習」を教科等の学習に取り入れ、週１回全校の朝活動の時間にも「要約学習」のスキルアップに取り組んでいます。また、美郷町では早くから一人一台のタブレット端末を導入し、令和３年度の３年生は、小学校４年生時より活用しています。

「考えるための技法」や ICT の活用が、情報を整理・分析するための手段として定着しており、生徒は教師から指示されることなく、日ごろの「要約学習」で培った力や ICT 活用の技能を総合的な学習の時間に発揮しました。また、手書き、タブレット端末の選択も学習スタイルに合わせ、自ら決定しています。

社会科で、資料を要約

付箋アプリでの分類

「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」においても、「考えるための技法」を活用することの意義について、以下の３つが示されています。「考えるための技法」の積極的な活用は学びを深めるためにとても有効です。

●探究の過程のうち特に「情報の整理・分析」における思考力、判断力、表現力等を育てる
●協働的な学習を充実させる（可視化され生徒間で共有して考えることができるようになる）
●総合的な学習の時間が、各教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質･能力を育成すると同時に、各教科等で学んだ資質・能力を実際の問題解決に活用したりするという特質を生かす（「考えるための技法」を意識的に使えるようにすることで、各教科等と総合的な学習の時間を相互に往還する意義が明確になる）

事例⑤　海士町立海士中学校（第３学年）

単元名 ミッション　イズ　ポッシブル　～課題解決型職場体験から自己の生き方を考えよう～	内容のまとまり「勤労」　探究課題「働くことの意味や働く人の夢や願い」（全 59 時間）

1　単元の目標

海士町の事業所での課題解決型職場体験を通して、地域で働く人の思いや価値観についての理解を深めることができるようにする。

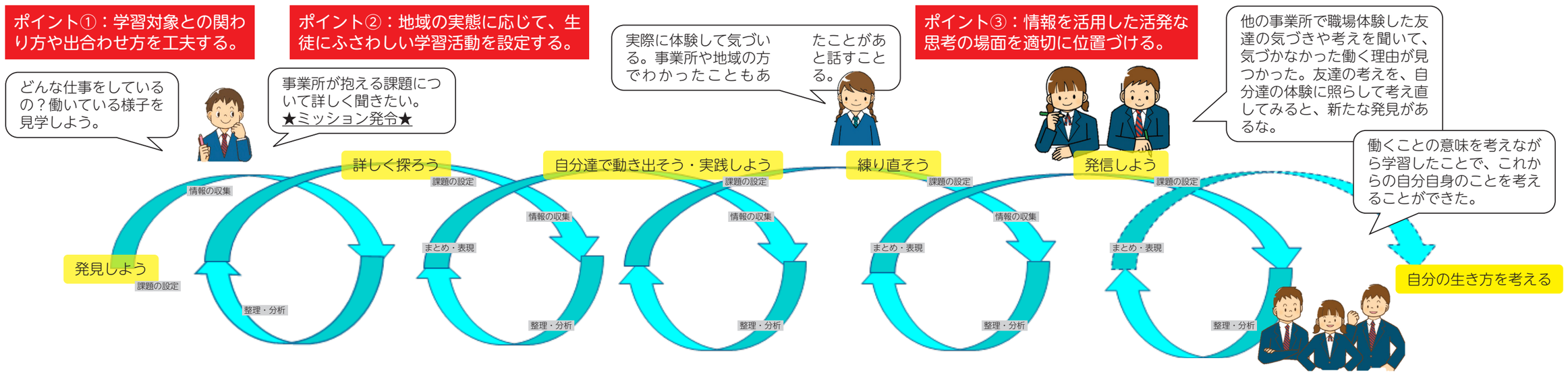
2　単元構想

小単元名（時数）	1　職場からのミッションをクリアしよう。(25)		2　実際に働き、働くことの意味を考えよう。(23)		3　活動を振り返り、お世話になった方や２年生に発信しよう。(11)	
学習活動	・「働くことの意味」を自分なりに考える。 ・地域にある職業を知り、職場体験学習を行う事業所を決定する。 ・各事業所からミッションを受ける。 ・事業所ごとに「働くことの意味」を探る計画を立てる。	・ミッションクリアに向けて、調べたいことを挙げ、調べる順序や手段などの計画を立て、見通しをもつ。 ・事業所や地域にアンケートを実施したりインタビューをしたりして、情報を集める。 ・アンケートやインタビューで得られた情報を整理したり、分析したりする。 ・整理した情報をまとめ、ミッションクリアに向けて解決策を考える。 ・事業所を訪問し、解決策についてフィードバックをもらい、見直したり修正したりする。	・職場体験を行う。 ・職場体験を通して「働く理由」を考える。 ・出されたミッションに対して考えたことを発表、実践する。	・「振り返り①」 ・同じ事業所で職場体験したグループごとに、職場体験を通して得た新たな情報や記録を整理･分析し、働く理由について再考する。 ・「振り返り②」 異なる事業所で職場体験した生徒の振り返り①を、自分達の体験と関係づけて、働く理由について考えたことを練り直す。	・「振り返り③」 振り返り②の内容を事業所に報告し、事業所の方からコメントをもらったり事業所の方の働く理由を聞いたりする。	・将来をイメージし、今後どのような社会人になりたいか、これからどのように生きていきたいか、ワークシートにまとめる。 ・ワークシートにまとめたことを事業所の方、保護者、２年生等を相手にポスターセッションで発表する。 ・事業所に感謝の手紙を送る。

ポイント①：学習対象との関わり方や出合わせ方を工夫する。

ポイント②：地域の実態に応じて、生徒にふさわしい学習活動を設定する。

ポイント③：情報を活用した活発な思考の場面を適切に位置づける。



ポイント①学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫する。

小単元１　職場からのミッションをクリアしよう。(25)

・海士中学校３年生　生徒 12 名（R ３年度）

職場体験の事業所 参加生徒数	ミッション
お山の教室 （保育所） ２人	自然のものを活用した遊びを考えてほしい
図書館 ２人	小中学生の意見をもとに、図書館をよりよくするアイディアを提案してほしい
隠岐桜風舎 (観光ガイド、土産販売等) ３人	後鳥羽上皇のストーリーを、誰にでもわかりやすく伝えるための媒体を作ってほしい
しゃん山 （島の直売所） ２人	海士町の生産者マップを作成してほしい
給食センター (学校給食共同調理場) ３人	①給食の新メニューを開発してほしい ②小学生に、ICT を活用した食育指導をしてほしい

職場でいきいきと働く人との出会いは、生徒に「自分も深く関わりたい」という対象へのあこがれを抱かせます。そして、職場が抱える課題解決のためのミッションを受けることで、「働くことと向き合ってみたい」「働くことの意味って何だろう」などといった課題意識を高めていきます。

☞**課題を設定する場面では、こうした対象に直接触れる体験活動が重要です。**

働くことと向き合ってみたい。
どうしたらミッションをクリアできるだろう。

ポイント②地域の実態に応じて、生徒にふさわしい学習活動を設定する。

ミッションクリアに向けて、事業所や地域にアンケートを実施したりインタビューをしたりして、情報を集めました。事業所を複数回訪れ、解決策について助言をもらったり、時には厳しい意見をもらったりして、「働くということの現実」について、より実感を伴った気づきを得ることができました。

☞**このような学習活動を実施する上で、外部の協力は欠かせません。海士町は外部との連携の構築のために教育（地域）コーディネーターを各校に配置しています。コーディネーターの協力を得て、学校が期待したい教育活動に、どのような人材や施設等が活用できるか相談し、調整を依頼します。**

なるほど！
うまくいく方法がわかってきた。もっと工夫したい。

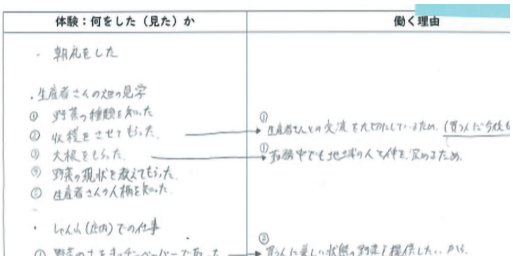
小単元２　実際に働き、働くことの意味を考えよう。(23)

☆職場体験学習☆

ポイント③情報を活用した活発な思考の場面を適切に位置づける。

同じ事業所で職場体験した生徒同士のグループ活動①

「職場で体験したこと」「体験を通して見つけた働く理由」をワークシートに整理する。 ⇨



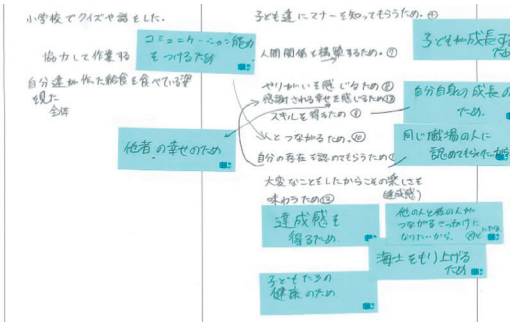
異なる事業所で職場体験した生徒の考えを聞くグループ活動

A「ここに書いてある『働く理由』は、どういうこと？」
B「○○な出来事、体験をして、その時にそう感じた。」

他者から多様な情報を収集するために、異なる事業所で職場体験した生徒の考えを聞くグループ活動を設定しました。質問し合うという形で活動することで、聞いている生徒が主体的に関わることができたり、よりよい考えを導き出したりすることができました。

同じ事業所で職場体験した生徒同士のグループ活動②

異なる事業所で職場体験した生徒が見つけた働く理由に対し、自分達の体験と関連付けて、新たに付け加えることを付箋紙に記して貼る。 ⇨



例「隠岐桜風舎」３人グループの場合

A「『しゃん山グループ』は、「買う人のために、土のついた野菜を洗って、ふいてから販売する」と気づいたって。」
B「うちらも、あるよね。お客さんに楽しんでもらいたい。お客さんのため。」
C「そういえば、ガイドに同行した時、ガイドの角谷さんも楽しそうだったし、お客さんも楽しそうだった。それだね。そういえば、おれらも、めっちゃ話しかけられたじゃん。うまく返せたかな。」
B「コミュニケーション力を鍛えるためっていうのもありそうだね。」
C「する側も、される側も楽しいんだから幸せを感じるためっていうのもある。」

自分たちだけでは、気がつかなかった「働く理由」を見つけることができた。

異なる事業所で職場体験した生徒の情報と、自分達の情報とを比較したり関係づけたりしながら、対話し、思考を深めていました。

☞**このように「考えるための技法」を活用し、可視化して生徒間で共有することで、効果的に思考することができたり、協働的な学習が充実したりします。**

小単元３　活動を振り返り、お世話になった方や２年生に発信しよう。(11)

ポスターセッションで発表。フリートークも実施。
学んだことを振り返り、これからの生き方にいかしていく。

Ⅴ　総合的な学習の時間チェックリスト

総合的な学習の時間の充実に向けたポイントを、教師側からまとめています。
各校で総合的な学習の時間を振り返ってみましょう。

項目		内　　容		チェック欄
A 単元構成	①		探究課題や育成を目指す資質・能力を明確にした全体計画を作成している。	
	②		単元配列表を作成するなど、教科等横断的な教育課程に向けた工夫をしている。	
	③		単元間や学年間のつながりを意識して単元計画を作成している。	
	④		探究的な学習の過程が繰り返されるように計画している。	
B 学習過程	①	課題設定	学習対象との関わり方や出合わせ方を工夫して、子どもが課題を立てることができるようにしている。	
	②	課題設定	子どもが、課題解決に向けて自分で計画を立てたり、解決方法を考えたりする時間を設定している。	
	③	情報収集	子どもが、課題解決に向けて、自発的に情報収集できるようにしている。	
	④	情報収集	子どもが、ＩＣＴを活用するなどして集めた情報を適切な方法で蓄積できるようにしている。	
	⑤	整理・分析	集めた情報をもとに、子どもが課題について考える時間を設定している。	
	⑥	整理・分析	思考ツールなどを用いることで、子どもが「考えるための技法」を意識的に使えるようにしている。	
	⑦	まとめ・表現	子どもが、相手意識や目的意識を明確にして、まとめたり表現したりすることができるようにしている。	
	⑧	まとめ・表現	子どもが、伝えるための具体的な方法を身に付け、目的に応じて選択して使えるようにしている。	
C 地域・校種間連携	①		総合的な学習の時間の目標や内容、実施状況について家庭や地域に情報発信をしている。	
	②		コーディネーターや地域の方なども含めて、総合的な学習の時間の打合せ等を行っている。	
	③		育成を目指す資質・能力を意識した、地域の「ひと・もの・こと」の活用を検討している。	
	④		中学校区単位で、総合的な学習の時間に関する合同研修や情報交換、指導計画の作成を行っている。	
	⑤		小中高の系統性や連続性を意識するために、情報共有の場を設けるなどしている。	

全体計画・単元計画・授業の構成等を見直したい！
教育事務所、市町村の派遣指導主事が相談にのります。お気軽にご連絡ください。

Ⅵ　地域素材の活用について

地域資源の情報を知りたい！地域のキーマンとつながりたい！

自分で情報を集める方法もありますが、地域の情報が集まってくる人に聞くことが有効です。教育事務所の社会教育主事・市町村派遣社会教育主事や地域の公民館、地域コーディネーターに、まずは声をかけてみてください。

「しまねのふるさと教育」HPへGO！

スマートフォン・パソコン等で検索または、下のQRコードから！

しまねのふるさと教育　検索

しまねの
ふるさと教育
ホームページ
ＱＲコード

「楽しく学べる！県内施設情報」

家族で、学校で、見学や体験活動の行き先としておすすめ。

授業等で活用できる資料や動画、ワークシート、出前講座情報などの掲載がある施設もあり、先生方にも、ぜひ見ていただきたい施設等の情報です。（活動の情報など、今後も随時更新）

「ふるさと教育事例」

ふるさと教育の事例を教育事務所ごとに掲載しています。他校の取組内容を知ることで、勤務校の取組に活かせるかもしれません！

「企業等と学校との連携」

「地域で活躍されている企業の方をゲストティーチャーとして招きたい」「子どもたちの体験活動や職場見学の受け入れ先を探したい」といった時、学校を支援する県内外の 300 以上の登録企業等の情報を見ることができます。

総合的な学習の時間ガイドブック
（小・中学校編）

令和４年９月

発行　島根県教育委員会（島根県教育庁教育指導課）
〒690－8502　島根県松江市殿町１番地

（表紙デザイン　島根県教育センター浜田教育センター）